

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書（第10号）

2017年度

就実大学
就実短期大学

地域と歩んだ就実の軌跡

地域貢献報告書（第10号）

2017年度

就実大学
就実短期大学

ごあいさつ

副学長兼産学官地域連携センター長

杉山 慎 策

厚労省が発表した「平成29年（2017）人口動態統計の年間推計」によれば、2017年の出生数は94万1千人となりました。統計開始以来はじめて100万人を割り込んだ一昨年から、さらに約3万6千人減少して、90万人台前半にまで減少しました。70年代までは200万人を超えていたことを思うと、極めて急速な少子化の進行が窺えます。

いうまでもなく少子化の進行は地方圏ほど著しく、地方の経済・産業の疲弊とも相まって、地域社会の活力維持が危ぶまれる深刻な事態に直面しております。そして、このことは同時に地方大学の存立をも大きく揺るがす状況であることも認識しなければなりません。

このため地方大学がもつ、地域の産業の担い手を育て、地域創生に貢献するという崇高な使命はますます重要なものになってきます。また、それなしには地域の大学の存立はおぼつかない時代となっているといえます。

日本私立大学団体連合会の高等教育改革委員会の地方活性化（地域共創）問題に関する小委員会において、

「私立大学は、わが国の学部学生の約8割が学ぶ場であり、大学数の約8割を占め、その約6割が地方に立地している。したがって、地域の特性に基づいた多様な価値の追求によって地域を牽引するリーダー及び中間層の育成は、私立大学が果たしている重い役割と公的責任のなかでも重要なものとなっている。地域社会における人材の育成や高等教育の機会確保などを通して、私立大学には、地方創生政策がめざす地域振興を推進する責務がある。」と指摘されています。

岡山県立大学や就実大学を含む8大学は平成27年度から「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」をスタートし、地方創生のための地道な活動を開始しています。県立大学が設立した「地域創生コモンズ」において、県立大学デザイン学部と就実大学経営学部が共同して地域の若手経営者のセミナーを実施しています。昨年度は真庭市で、今年度は備前市で実施し、参加者から高い評価を得ております。

当然のことながら、地域創生にはまず地域のことを深く知ることが必要です。COC+参加の8大学は自治体、企業からなる29機関の参画を得て、5か年計画で「岡山創生学」や「岡山学」など地域に眠る歴史や資源の掘り起こしを行い、これを参加大学の学生や地域市民のための講義に活用するべく取り組んでいます。

一方、本学においては、これまで「就実公開講座」をはじめ「就実教育実践センター講演会」「薬学部地域連携教育講座」「就実大学経営学部マーケティング実践講座」など、各学部・学科における様々な講座が地域市民に公開されています。また、経済団体、銀行、自治体、山陽新聞社、いくつかの医療機関などとの連携協力を進めてきました。さらに、教職員・学生による地域支援、ボランティア活動として、「学生ボランティアグループGBAによる地域子育て支援」「就実子育てアカデミー」「吉備地方文化研究所」等の活動は、大学基準協会の認証評価においても、優れた取り組みとして高く評価されました。

大学の教育研究活動によって獲得されてきた知識や技能を社会貢献という形で地域社会に還元することが地域の活性化につながり、生活改善や福祉の向上、豊かな社会の形成に役に立つと考えています。このような地域と密着した大学としての存在が就実大学と言うブランド力を高めると確信しています。「産学官地域連携センター」を中心に、学内外の変化も取り入れながら様々な活動に取り組んで参ります。皆様の多大なご理解と、ご支援、ご協力をお願い致します。

平成30年3月吉日

目 次

ごあいさつ.....	1
就実公開講座.....	5
学科・研究所・センター等主催事業.....	33
出前授業.....	55
学外組織との連携・協働.....	61
各種学外委員会の応嘱.....	77
講師の派遣.....	89

就 実 公 開 講 座

前期講座テーマ

「心と体の謎解き教室」

(平成29年6月3日～7月8日)

もし災害がおったら・・・ 心と身体はどうなるの？

教育学部 教育心理学科 教授 石原 みちる

熊本地震からようやく一年が経ちました。岡山は自然の脅威に対する感覚が他県より薄いところがあると思われれます。自分自身を振り返っても、東日本大震災の支援に行った後は高まっていた意識が、数年経つと低くなっています。この講座では、災害時の心身の状況を一緒に確認し、もしもの時に少し違う考え、動きができるように今からできることを考えたいと思います。

はじめに、災害に遭遇した時の心と体の一般的な経過を紹介します。災害に遭遇した後、恐怖、無力感に支配された [衝撃期]、生き残ったことへの幸福感・連帯感に包まれる [ハネムーン期]、災害による喪失の深刻さや復興が思うように進まないことに直面し、悲しみや怒りを感じる [幻滅期]、そして、徐々に立ち直っていくまでの長い [回復期] があります。それぞれの時期に、命に関わるようなトラウマを繰り返し思い出したり、大切な人を失った喪失から怒りや悲しみに支配されたり、また日常生活の変化に対しても様々な反応が起きますが、それらの反応は全て異常な事態に対する正常な反応です。そういう知識を持つことが、今できることでもあります。

では、これらの心の危機から回復するためには、何が必要でしょうか。心のケアの基本は、他人に何かしてもらうことではなく、傷ついた自分の心を主体的にケアできるよう、自らの回復力・自己治癒能力が最大限に引き出されるようにすること、「セルフケア」(自助) です。そして、身近な人と助け合う [共助]、公的な支援である [公助] が必要となります。心の危機から回復するために必要なことは、まず、安心・安全の保障、他者からのサポート (絆)、そしてストレス反応と対処方法の知識やスキルの獲得と言われています。

名古屋大学こころの減災研究会は、「心の減災」ということを紹介していますが、これは、災害に遭う前の備えが、心へのダメージを少しでも少なくすることができるという考え方です。安心・安全のためには、建物の耐震化・家具の固定を日頃からすることができます。もしもの時に絆が機能するように、家族、地域コミュニティなど身近な人との繋がりを意識し、強めることができます。また、ストレスに対する知識やスキルを学ぶこともできます。そのように、今からできる備えがあるのです。



最後に、自分達でできるリラクゼーションを体験してみましょう (体験)。このように、災害にあっても自分たちでできる自助、共助があることで、私たちの心は少しずつ時間をかけて回復し、やがては、つらい体験を含めて、もう一度自分の人生を構築、生きていくことができるのです。

実践で学ぶちょっと先の認知症予防

教育学部 教育心理学科 教授 桑原和美

この公開講座では、近年運動が認知症の予防にも効果があることへの周知が広がっていることから、まだまだ先と思わず、今から運動の楽しさ味わい習慣化に繋がる一つのきっかけになるよう期待して、脳のトレーニングと運動を組み合わせたプログラムを実施しました。

場所は体育館の多目的ホールを使用し、前半はスクリーンを使った座学、後半は実技という組み合わせです。
※下はその様子です。



前半の座学では次のようなことをお話ししました。

I. 認知症とはこのような病気です

- 記憶力・判断力といった「認知」の機能が徐々に低下していきます。
- 何らかの原因によって神経細胞が死滅し、脳が萎縮することで起こる進行性の病気です。
- 進行するとそれまで当たり前できていたことができなくなり、普段の生活に支障が起きてきます。

II. 認知症の主な症状として以下のことが挙げられます

- 意欲の減退
- 判断力・理解力の障害
- 見当識^{*}障害
- 被害妄想

※見当識とは、今日の日付や現在の時間、自分が居る場所、今誰と話しているのかといった認識のことです。

また認知症は進行性の病気で、現在の医療では一度発症すると元に戻すことはできないとされています。

III. 発症の実態について

- 65歳以上の発症率は約2%とされ、80歳以降には5人に1人くらいまで増加します。これは全高齢者の15%に相当し、またその数は岡山の人口の2.5倍近くにもなります。
- 世界の状況を見ると、国際アルツハイマー症協会の試算では2013年に約4400万人だった患者が2030年には7600万人、37年後の2050年には3倍の1億3500万人にもなるとされています。認知症は日本だけでなく世界が直面している大きな問題なのです。

IV. 認知症になりやすい要因があるのでしょうか

加齢に伴う様々な症状が認知症の発症につながっているわけですが、次のような要因があるとさらに発症しやすいと考えられています。

- ①生まれつきある遺伝子を持っている ②以前に頭を打って脳に損傷を受けた
③うつ状態 ④コミュニケーション不足（閉じこもりによる） ⑤運動不足
周りの理解や協力で、予防可能なこともありそうです。

V. 「軽度認知障害（MCI：Mild Cognitive Impairment）という言葉聞いたことがありますか？

MCIとは、認知症とまではいかないけれど年齢の割には認知機能が衰えていると見なされる障害で、現在日本でMCIに該当する65歳以上の方は約400万人いると考えられています。例えば、普通の65歳以上の人だと2年間で認知症になる割合は1%程度なのですが、MCIの人では2～9%が認知症を発症するとされ、予備軍とも言える方々です。ただし、MCIと診断されても原因となる要因が解消されると31～44%の人は正常に回復するとも言われていますので、MCIの早期発見と対応が認知症予防にはとても重要と考えられます。

VI. 認知症の予防には「脳を働かせる」プラス「運動をする」ことが大きな効果を発揮します

- ①脳の機能低下を防ぐには、脳を働かせることが大切で、様々な“脳トレ”が有効です。例えば、パズル、ゲーム、計算、読み書き、手を使った工作、そして人とのコミュニケーションや新しいことをするなどです。
- ②認知症の2大原因は「アルツハイマー症」と「脳血管疾患」で、その危険因子には生活習慣に関連するものが多く、中でも危険度が高いとされているのが「運動不足」です。例えばアルツハイマー病は「アミロイドβ」というタンパク質が脳に蓄積することで神経細胞が死滅し脳が萎縮する病気ですが、その脳の萎縮は「海馬」から始まります。そして運動には海馬の萎縮を食い止める効果があるとされているのです。
- この両方を行なうことが重要な鍵になります。

VII. どんな運動だと効果があるのでしょうか

実は運動の種類によって効果は違います。毎日のストレッチでは効果「なし」ですが、週3回の有酸素運動は効果があると認められています。しかし、単純な有酸素運動だけで効果が上がるのかというと、どうもそれだけでは十分とは言えないようです。ではどのような要素が必要かという、「質の異なる2つのことを同時にする」、例えば、歩く・自転車をこぐ・ステップをふむといった足の運動に、頭の運動いわゆる脳トレを組み合わせるのです。

<いざ！実践してみましょう>

ということで、講座の中ではみんなで、さまざまな「足の運動プラス頭の運動」にチャレンジしました。以下はその一部です。

- グループを作り、みんなが同じリズムで足踏みをしながら、順番に数を数える・足し算や引き算をする・ある数の倍数の時に拍手をする。
- リズムカルな音楽に合わせて簡単なステップのパターンを覚えて足を動かしながら、そこに上半身や、ちょっとややこしい腕の動きを加える。
- 間違っても気にせずみんなで笑いながら、楽しんで続けることが何より大切なのです。

引用・参考文献

- 広川慶裕（2017）『認知症予防トレーニング 認トレ 一生ボケない！38の方法』すばる舎
島田裕之（2014）『認知症予防の簡単エクササイズ』NHK出版
島田裕之（2015）『認知症予防運動プログラム コグニサイズ®入門』ひかりのくに

話を『理解する』 —認知心理学の視点から—

教育学部 教育心理学科 教授 堤 幸一

講師は、教育心理学科で、主に認定心理士養成のコアカリキュラムを担当しています。専門分野は、認知心理学・学習心理学になります。では最初に、本日の概要ですが、右表のように進めます。

- I わかるとは？ (文脈と状況モデル)
- II なにこれ？体験 (意味明瞭でも状況不明)
- III 本日のまとめ

I わかるとは？

わかるデモ① 図1の上段は「12、13、14」と、下段は「A、B、C」と読み分けられますが、実は中央の13/Bは同じ字形です。なぜ読めるのかというと、上段は数字、下段はアルファベットであるという「文脈」が推定できるおかげです。

わかるデモ② 次に図2の左側の図形は、なんでしょう？図2の右をご覧ください。わかるように、実はやはりアルファベットが隠されています。これは見えていないものを自動的に補うという知覚の補完機能なのですが、ここにも文字が隠れているという推論が「文脈」となるため読めるともいえます。

わかるデモ③ 誰かが「私はウナギです」といっています。そのままでは意味がわかりませんが、その前に「今日のお昼に何を食べたいですか」という問への答えだと追加したら、すっきりとわかるでしょう。

さて、ここまで文字がわかるにも、文がわかるにも、文脈が必要なことをデモでお見せしましたが、単語は文字の組合せ、文は単語の組合せ、文章は文の組合せとなっていて、実はどのレベルでも、わかるためには文脈を推論することが必要なのです。

一般に、人が(話を)わかるためには、まず文脈を推理して選択します。これって『○○の話かな？・・・』、そしてそれに沿って、個別の文の意味を解析し、表面上の理解を得ます。『要約すると○○ということ！』しかし、実はそれだけでは本当にわかったことにはなっていません。真にわかったとなるためには、最後に文脈生成の枠組(状況モデルと呼ばれています)が再構成されて、『○○って言っているけど、(推論したら)たぶん◎◎の話だな』となる必要があります。そして再構成された状況モデルは、これ以降、類似の場面で活用できるようになりますが、

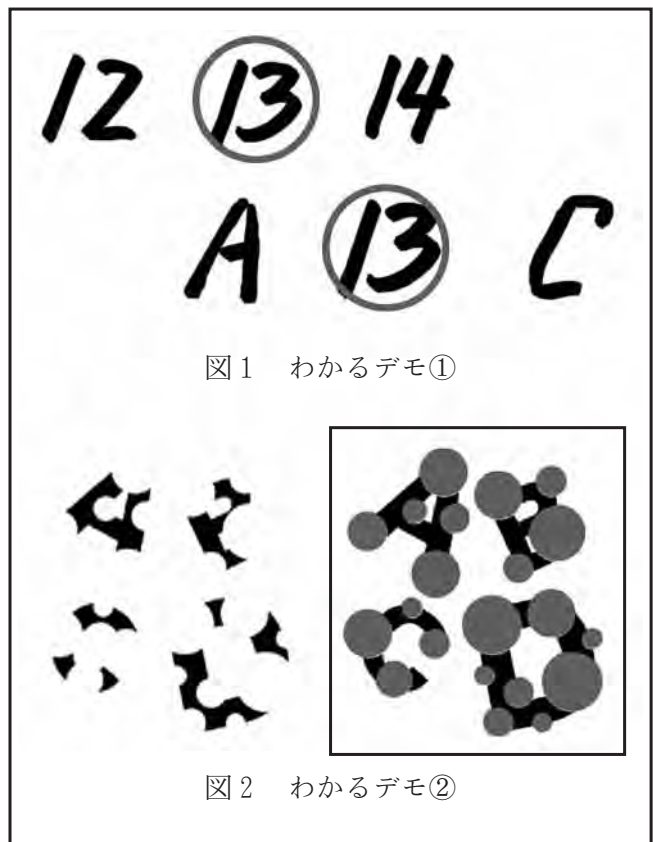


図1 わかるデモ①

図2 わかるデモ②

それこそが「わかった」状態だといえるでしょう。

I のまとめ

- 表面上の理解（＝要約可能）で「わかる」だけでは不十分。
- （言外の推論も含め）状況モデルが作れて初めて、「わかった」状態になる

II なにこれ？体験

第2部では、各文の意味はそれぞれ明瞭でも、状況が不明?!という文章の音読を聞きながら、記憶してもらい、直後にできる限り正確に思い出して書き出すという体験をしていただきます。なおこのデモ体験は、Bransfordら（1972）の報告している実験を参考にして作られたものです。

1. 初回の再生：まず13文からなる、ある場面の解説文の音読を聞いて、10分間の制限時間内に、できるだけ原文を思い出して書き出してもらいました。（今後の教材としての活用のためにも、ここでは原文を明示いたしません。）
2. 書き出し終了後、その場面の挿絵を各自に配布して、文脈として利用するように教示した後、再度、同じ文章の音読を聞いて、場面がどのくらいわかったか、どのくらい覚えているかの体験をしてもらいました。

IIのまとめ

このデモ体験を通じて、受講生の皆さんも、「各文の意味が明瞭でも、（文脈が）理解できないと、記憶しにくい」こと、真の理解のためには、各文の意味を羅列した表面上の理解が得られるだけでは不十分であり、文脈を推論し状況モデルとして取り入れることが重要であることが実感していただけたことと思います。

III 本日のまとめ

本日お話した、文脈やその生成枠組み（状況モデル）とは、簡単にいえば、わかるための背景かつ仕組みのことです。これらを運用して、人が文章をわかることについては、次のようにまとめることができるでしょう。

1. わかるとは、表面上の理解および推論の複合体が作られることである。
2. よりよくわかるためには表面上の意味を理解するだけでは不十分である。
3. 経験を増やし、状況モデルを洗練・豊富化することで、わかる力も増す。
4. わかることで、さらに記憶もしっかり保持・再現できるようになる。

話をわかることは、極めて日常的なものです。実は非常に重要な仕組みであると、認知心理学では考えられています。本日の内容を今後の日常生活にも、ご活用いただければ幸いです。

長時間のご清聴ありがとうございました。

微生物が感染すると、どうして病気になるの？

教育学部 教育心理学科 教授 森 宏 樹

はじめに

本講座では、微生物の種類、ヒトの生体防御機構、感染症による炎症症状の発症機序、感染成立の三要因を概説することにより感染症についての理解を深め、感染症を予防するための基礎知識を修得することを目的とした。

微生物と感染症

微生物には、真菌、原虫、細菌、ウイルスが含まれる。細菌、真菌、原虫は単細胞の生物であり、自己増殖できる。一方、ウイルスは、宿主細胞と言われる動物細胞等に侵入し、その中で初めて増殖するため生物の定義から外れるが、微生物として扱うことが多い。このような微生物は、私たちの身の回りのあらゆる生活環境に存在するとともに、ヒト体表面に存在する。ヒト体表面に存在している微生物は常在菌と呼ばれており、通常病原性を示すことはない。また、枯草菌、コウジカビ、乳酸菌など微生物は、病原性を示すことなく発酵食品の製造に用いられ、私たちの生活にとって有益でもある。一方で、感染症を引き起こす病原微生物も多く存在する。例えば、食中毒の原因となる腸管出血性大腸菌、黄色ブドウ球菌、ノロウイルスなど病原微生物である。

病原微生物がヒト体内に侵入し増殖することにより引き起こされる疾患を感染症と呼ぶ。身近な感染症としては、普通感冒、インフルエンザ、風疹、麻疹、結核、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、水痘（水ぼうそう）、足白癬（水虫）、麦粒腫（ものもらい）などがある。最近では、ジカウイルス感染症（ジカ熱）、デング熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、中東呼吸器症候群（MERS）、高病原性鳥インフルエンザなどの新興感染症が世界的に問題となっている。

病原微生物は体内に侵入後体内で増殖する。その結果、体に何らかの症状が出現する場合を顕性感染と呼び、一方症状が出現しない場合を不顕性感染と言う。顕性感染の場合、病原微生物の感染成立後、発症するまでの期間が潜伏期間である。発症後、体内の生体防御機構により病原微生物が排除され、症状が治まった後でも、病原微生物が体内に存在する。そのため、保因者として意識し感染拡大に充分注意する必要がある。また、不顕性感染の場合も、保因者であるため感染症を広げてしまう可能性があり、注意が必要である。

免疫と炎症

ヒトは非常に多くの微生物に囲まれながら社会生活を営んでいる。言い換えれば、ヒトは絶えず病原微生物による感染症に脅かされている。これらの脅威に対してヒトは免疫と言われる生体防御機構を持ち、絶えず侵入してくる病原微生物と戦い、これらを体内から排除している。すなわち、免疫の働きによりヒトの健康が維持されているのである。

免疫は複数の働きから構成される。まず、体表面では、皮膚による物理的な障壁、口腔や鼻腔内の粘液による洗浄や殺菌、咳やくしゃみによる異物の排除により微生物の組織内への侵入を防いでいる。これらの働きを乗り越え微生物が組織内へ侵入した場合、組織内で種々の免疫細胞が働くことにより病原微生物を殺菌・排除していく。例えば、血液中を循環している白血球の一種である好

中球は、組織中に存在する他の免疫細胞の働きにより血液中から組織中に呼び寄せられ、病原微生物を好中球内に取り込み分解している。様々の免疫細胞は種々のシグナル分子を分泌することにより病原微生物の排除を促進する環境を作りだしており、その結果ヒトに現れる症状を炎症と呼ぶ。炎症の主な症状は発熱、発赤、腫脹、疼痛である。病原微生物の感染が免疫細胞により検出されると、その免疫細胞がシグナル分子を放出し血管を構成している血管細胞に働きかける。その結果、血管が拡張し、血流が増加することで、炎症部位が発赤し、発熱する。また、血管から組織への細胞を含む物質の透過を促す。そうすると、血液中の白血球が組織内に侵入しやすくなると同時に、水分が組織内へ侵入する。これらにより炎症部位が腫脹し、疼痛を生じる。さらには、シグナル分子の刺激により血管細胞はプロスタグランジンという発熱物質を合成する。このプロスタグランジンは脳内の体温調節中枢に働きかけ、全身の熱産生と熱放散抑制を促すことにより体温が上昇する。この発熱により病原微生物の増殖が抑えられ、そして免疫細胞機能が活性化する。以上のように、ヒトが感染症に罹患した時、全身に種々の症状が発症するが、これらは全て免疫細胞を活性化させたり機能促進させたりする上で必要な環境を整備する副作用なのである。

感染の成立と予防

感染成立の三要因は、病原微生物を保有する「感染源」、病原微生物が侵入し増殖する「感受性宿主」、そして病原体と感受性宿主間の経路である「感染経路」である。感染源はもちろん感染症患者、感染症患者からの吐瀉物、病原微生物で汚染された食品、病原微生物が共存しているブタやトリなどの動物である。感受性宿主は、病原微生物の侵入を許し体内で病原微生物の増殖させるヒトなどの動物である。従って、感受性宿主は、一度感染が成立すると感染源へと変化する。さらに、病原体と感受性宿主間の経路である「感染経路」は、垂直感染と水平感染に大別される。垂直感染（母子感染）は、母体内から病原微生物が直接胎児に感染したり、分娩時に乳児に感染したりする場合をいう。それに対して、垂直感染以外の全ての感染経路が水平感染となる。水平感染は、病原微生物が伝播する形式、病原微生物が感受性宿主に侵入する場所（侵入門戸）により分類される。伝播形式による分類では、接触感染、飛沫感染、空気感染、媒介物感染が含まれる。侵入門戸による分類では、経口感染、経気道感染、経皮感染、粘膜感染が含まれる。

感染症予防の基本は、感染成立の三要因である「感染源」、「感受性宿主」、「感染経路」に対策を講じることである。感染源対策としては、発病者の早期発見・治療・隔離（就業制限や学級閉鎖）、汚染部位の消毒などである。感受性宿主対策としては、健康教育、十分な休息、予防接種などが挙げられる。さらに、感染経路対策は、感染経路別に対策を取る必要がある。経口感染では正しい手洗いの慣行、汚染設備備品の消毒など衛生環境整備、経気道感染ではマスク着用を含む咳エチケット、経皮感染では長袖等の着用や、カやダニなど衛生害虫の駆除などが挙げられる。

最後に

本講座では、感染症に関わる基本知識を概説した。基本知識を踏まえれば、様々な場面で応用可能であり、感染症の予防に活用し健康の維持・促進に生かして欲しい。

カラダと脳に効く運動～歩く？走る？～

教育学部 教育心理学科 講師 森村和浩

老化や生活習慣病は、ミトコンドリアの機能低下と筋肉量低下が関連することがわかってきたが、これらは歳のせいではないこともわかってきている。たとえ歳をとってからでも、これらの機能は適度な運動で若者並みに回復する。健康づくりや生活習慣病を予防するためには、運動が不可欠であることは周知の事実である。身体や脳に効く運動とは果たしてどのような運動なのか。本講座では、こころと身体の疑問を身近な「走る」と「歩く」ことの視点から以下の内容について講座を行った。

人類の200万年の歴史を200m走に例えると、199メートルは走る事を中心とした狩猟生活を送ってきた。しかし、人類はゴール（現在）まであとわずか一步にも満たないところで、車や電車に乗り換え、近所のコンビニで狩りをするようになり、極めて不活動な生活へと変貌させていく。この生活スタイルの変化は、私たちの生活を楽にする一方で、生活習慣病（運動欠乏症）等、心とカラダの病を蔓延させていくことになる。

人は猿に比べ3倍ほど大きな脳を持っている。なぜ、人がこれほど大きな脳を育むことができたのか？人類は、二足歩行によって進化したとする説が有力であるが、人体の仕組みから、この定説を覆す論文がnature誌に報告されている。それは、私たちヒトに備わっているアキレス腱や発汗能力など身体の仕組みの多くが、獲物を探し追いかけて、長く走り続けるために備わったものであるというものである。狩猟を主体とする生活、すなわち、長く走り続けるような生活スタイルの中で人類は、より多くの情報を記憶し、処理し、整理や判断をするために脳を飛躍的に発達させてきたのではないかというこれまでの定説を覆す論文である。長生きや健康の秘訣は、長く走ることなのかもしれない。では歩いたり、走ったりするときに脳の中では何が起きているのだろうか。歩くと脚の筋肉を動かすための運動野と呼ばれる部分が活発になる。そして、徐々に速度を上げて息が弾む程度の走るペース（息切れせずに笑顔も保てる運動強度）になったときに興味深いことが生じる。走ることと一見関係のない思考や判断、集中力をコントロールしている前頭前野が働き始め活性化するのである。また、長く走るための体力要素は、全身持久力であるが、この持久力を表す生理学的指標は最大酸素摂取量と呼ばれ酸素を取り込んで運動ができる最大の能力を示し、身体的・心理的な健康度と関連が高いことで知られている。この最大酸素摂取量を高めるような運動、すなわち有酸素性運動が、脳の神経の成長や脳の安定を促す物質（BDNF等）を産生する働きや前頭前野を活用する課題処理能力を高め、記憶の形成に関わる海馬の容量も大きくすることがわかっているのである。

では、生活習慣病や脳機能と関連の深い最大酸素摂取量を高めるためにはどうすれば良いのか？この強度は、前述の脳の働きが高まり始める運動強度と同一である。運動生理学的には、乳酸性作業閾値と呼ばれる運動強度であり、運動強度を徐々に高めていくと「乳酸」が血中に急増し始める（息がはずみだすなどの）ポイントがある。この強度の特徴は、乳酸の蓄積がほとんど無いため、高齢者や有疾患のような運動習慣のない低体力者でもはじめてから30分以上の運動が持続できる運動強度である。誰でも容易に笑顔を保って運動することができることから、ニコニコペースと呼ばれ、マラソンランナーもこのペースを維持しながらレースを展開している。ランナーも同じニコニ

コペースと思うかもしれないが、高齢者の最大酸素摂取量は20～30ml/kg/分で、マラソントップランナーは70前後もあり倍以上スピードが異なる。トレーニングの賜である。さて、階段を昇るときに必要な酸素摂取量は、20ml/kg/分前後である。最大酸素摂取量が20ml/kg/分を下回ると、階段を昇るためのエネルギー供給ができないため、階段を登ることができない。いわゆる、要支援や要介護の状態である。高齢者を対象に最大酸素摂取量に対するトレーニング効果を調べた研究を見ると、有意に増加するとする報告が多い。遅すぎることはないのである。トップランナーまでとはいかないまでも、要支援・要介護の予防どころかどんな人でもフルマラソン完走も夢ではないのである。一方で、不活動は最大酸素摂取量を激減させてしまう。座位作業やゴロゴロとした不活動な生活は、3週間で30%も低下させる。最大酸素摂取量は、10歳の加齢で10%減少するとされるので3週間の不活動は3歳加齢したことと同じ事である。また、不活動は、酸素摂取量に関わるミトコンドリア機能を規定する遺伝子を活性化させるPGC-1 α 遺伝子発現を抑制する。さらに、骨格筋からは炎症性のサイトカインが分泌され、糖尿病や心疾患、ガン、脳神経疾患を促進させる可能性も示されている。私たちが、「歳のせいだ」と感じている心身不調の原因は「不活動」によるものなのかもしれないのである。

運動が健康に不可欠な理由は、健康との関連深いPGC1- α の遺伝子発現をはじめ、様々な遺伝子発現や骨格筋由来のサイトカインが運動（ニコニコペース以上）によってコントロールされるためである。ニコニコと笑顔を保つことのできる運動「走ること」は、内なる自然をとりもどす万能薬なのである。

以下、公開講座報告 本学HPより

「カラダと脳に効く運動ー歩く？走る？どっち？ー」というテーマの講義でした。最初に、身体と脳（心）は繋がっており、特に人間（ヒト）の脳は足を司る部分が大きく発達していること、また、人間（ヒト）の身体が、バネの役割をするアキレス腱に象徴されるように、進化の過程で「長く走る」ようデザインされ、走ることで脳が鍛えられてきたことなどが説明されました。そして、そうやって進化してきた人間（ヒト）の身体と脳に効く運動として、スロージョギング®（足の指の付け根で設置し、疲れないうちにここのペースで走る）を紹介されました。実際に、教室でスロージョギングを体験してみたり、簡単に行える手遊び運動を行ってみたりと、楽しみながら、「これなら出来る！」というヒント盛りだくさんの講義でした。先生が示されるデータに驚いたり頷いたり、次々に質問の手が挙がり時間が足りなくなるなど、皆さん大変熱心に受講されており、関心の高さが窺えました。



発達障害とはどんな障害？

教育学部 教育心理学科 教授 岡田 信吾

障害者と聞くとついつい、できないことがある状態ばかりを想像してしまいがちです。しかし、現代の障害者の定義は、「心身の状態によって活動に参加するために、様々な変更や調整が必要な状態であること」とされています。10年ほど前、オスカー・ピストリウスというオーストラリアの陸上選手が活躍していました。ピストリウスは、先天的な骨の形成異常で両足とも膝から下を切断した義足のランナーとして知られ、世界陸上やオリンピックにも出場しました。彼は、陸上の国際大会で活躍できるほどの能力がありましたが、義足の使用が認められなければ歩くこともできませんでした。彼にとっての「変更や調整」とは、義足の使用が認められることで、活動への参加とは、世界的な陸上大会への出場だったのです。この例からもわかるように、障害は、できる・できないといった単純な問題ではなく、どのようにすれば参加が保証されるのかという支援に関わる社会的な合意の問題なのです。

今回のテーマとした発達障害は、我が国では「発達障害者支援法」の中で、学習障害、注意欠如・多動性障害、広汎性発達障害、その他類する障害として示されています。学習障害とは、知的な遅れはないものの読む・書く、聞く・話す、計算する・推論する等の特定の活動が著しく難しい状態を示します。注意欠如・多動性障害とは、自分の注意力をコントロールすることが難しく、すぐに気が逸れて一つの事に終わりまで取りかかれぬ、あるいは片付けができないなどの状態となります。広汎性発達障害は、様々な状態がありますが、主として合理的でないことへのこだわりと人とのよい関係を作ったり保ったりすることの難しさとして示されます。また、これらの障害に共通することは、発達期に発現することと、脳機能の障害が推定されることの二つです。発達障害は、子どもの頃に気付かれることが多いが、そのサポートは、生涯必要となる場合がほとんどなのです。

発達障害は、脳機能の障害であるため、状態像を理解するためには、脳の機能の理解が必要となります。私たちは、脳というと単一の臓器のように感じますが、その働きは部位によってかなり違います。例えるなら、私たちの内臓を思い浮かべるとわかりやすいです。私たちは、胃で消化することはできますが、腎臓で消化することはできません。その逆も無理です。脳も同じです。視覚に関わる部分が聴覚的な情報を処理することは基本的にありませんし、言語に関わる部分が全身運動を司ることもありません。それどころか、ひらがなを読む時に使用される部分と、漢字を読む時に使用される部分も異なっています。また、文字を読む、言葉を話すといった複合的な機能に関しては複数の脳の部位が関わっていることがわかっています。これも、内臓にたとえて考えると理解が容易になります。私たちは、食物を口でおおまかにかみ砕き、胃、小腸、大腸とそれぞれ異なる部位で異なる消化・吸収に関わる作用を行います。文字を読む場合の脳の働きでは、まず文字が映像刺激として取り込まれます。次に、文字かどうか判断され、文字であれば音を示す刺激として処理が進められます。音に変えられた刺激は、単語として認識され文節相互の関連の中から文意が理解されます。さらに、文意に沿って自分の経験や過去の知識と参照され、その意味が完全に理解されます。「オカダは正直に発言するので好かれている」、「オカダは正直に発言するので嫌われている」、この二つの文章の意味するところはおわかりですよね？。脳では、このように複雑で微細な処理が行われているのです。

発達障害のある人たちは、脳での複雑な情報処理過程のどこかにつまきがあるため、その状態も一様ではなく、一人ひとり異なる困難さがあります。そして、その診断については、f-MRIやCTなどの画像的診断や脳波のみで診断されることはありません。もちろん血液検査や、知能検査だけでも診断されません。あくまでも、前に書いたような状態像から診断がなされます。そのため、見た目からその人に発達障害があるかどうかは理解されず、単に怠けているだけではないかとか性格の問題ではないかといった理解がされてしまうことが多くあります。

発達障害の人たちに対し、早期から適切な支援が行われれば、社会参加はそれほど困難ではないと考えています。しかし、障害があることが理解されるまでに時間がかかるため、早期からの支援が受けられない場合が多くあります。その場合は社会参加が困難となります。視覚障害のある人に「見えないのは、見たいという気持ちが足りないからだ」などという人は絶対いないと思います。ところが、発達障害に対しては、「漢字が覚えられないのは、一生懸命練習しないからだ」、「部屋が片付けられないのは、だらしない性格だからだ」、「友達ができないのは、性格が悪いからだ」など本人の人間性が否定されたり、無理なことを強いられたりする例を多く見聞きするのです。このように、理解されず支援の受けられなかった発達障害のある人たちは、その成長の途上で様々な不適応感を味わい、結果的にさらに状態を悪くします。

発達障害のある人たちにとって必要な支援は、一人ひとり異なりますが、本人を慈しみ理解しようとする大人の存在が不可欠です。栗原類さんというタレントがいます。この方は、アメリカで診断を受け、早期から特別な教育的対応を受けてきた方です。この人は、お母さんが彼のことを理解し、今に至るまで導いてきました。現在タレントとして活躍しているのも、お母さんのすすめだったようです。彼のお母さんは、類さんがネクタイを締めて毎日定刻に通勤し、書類やパソコンに囲まれた生活を送ることは想像もできないと判断し、芸能界入りをさせたそうです。私がこれまでお会いしてきた発達障害の方々の様子からも、この類さんのお母さんのお考えはすんなり理解できました（とはいっても、発達障害ならだれでもタレントに向いているというわけではありません）。

現在、日本では発達障害に関する理解は、まだまだ不十分です。発達障害が学校現場での話題となるようになってから、ほぼ20年が過ぎました。多くの義務教育段階の学校の先生方は、発達障害について理解されているように思います。また、発達障害のある子どもにとって必要な教育的支援を、通常学級の全体指導の中で自然に取り入れられている例もよく耳にします。今後は、学校だけでなく広く一般の社会に発達障害が理解されていることが重要だと思います。

特別支援教育が目指す大きな理念がインクルージョンです。インクルージョンとは、個人個人を理解し、必要な人に必要な支援を提供することをとおして、その人の状態にかかわらず共に生活できる社会創造への動きです。このような説明だけでは、分かり難いと思います。例えば、家族みんなが食卓を囲む場面を考えて欲しいのです。小さな子どもがいたら骨をとった魚を与え、中高生には少し量を多く提供し、老人には脂っこい部分を取り除いて提供すると思います。そして、家族みんなが満足して食卓を囲むよう、ちょっとずつ気を配るのだと思います。インクルージョンとはこのような考え方です。発達障害のある人たちと、ともに気持ちよく生活ができるよう、まずは彼らの理解が広まることを希望します。

引用文献：栗原類（2016）「発達障害の僕が輝ける場所を見つけられた理由」KADOKAWA.

後期講座テーマ

「未病－健やかな生活を送るための知恵と工夫－」

(平成29年9月30日～11月25日)

健やかに過ごすための感染対策

薬学部 薬学科 教授 塩田 澄子

日本における死亡原因の1位はがん、2位は心臓疾患、そして第3位は肺炎である。肺炎は細菌やウイルスなど微生物が引き起こす感染症の一つであり、特に高齢者には命を脅かす疾患となる。感染症は原因となる微生物の特徴や感染経路を知れば予防することができる。最近話題の感染症や、健やかに過ごすために、感染症を正しく知って、正しく防ぐコツを紹介する。

1. 最近話題の感染症

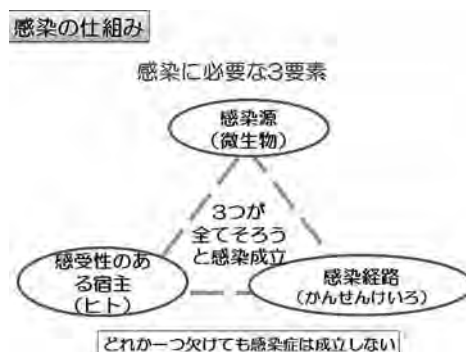
2017年8月下旬のこと、総菜店で買ったポテトサラダを食べた人が腸管出血性大腸菌O157の食中毒を起こしたという記事が新聞紙上を賑わせた。その後も同系列の総菜店のサラダ以外の惣菜でも感染が起り、23名が感染し、3歳の少女が亡くなったことが判明した。また、2017年の春から夏にかけてはSFTSウイルスによる重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が国内で急増し、過去5年で最も感染者が多くなっていることが報道された。同時期、厚生労働省は西日本在住の女性が、弱った猫を保護しようとして噛まれ、SFTSを発症して亡くなっていたと発表した。SFTSウイルスはマダニが媒介する。弱った猫はSFTSウイルスを保有しており、マダニに噛まれて発症したものと思われる。マダニは森や草むらに存在しており、ペットの猫や犬にもいることが多い。ネコからの感染で致死率の高いSFTSになる可能性があるという報道には驚かされたが、感染症はいつどんな形で起こるかわからない。



ヒトの皮膚を噛み吸血するマダニ

2. 感染の仕組み

感染の成立には感染源（微生物）、感受性のある宿主（ヒト）、感染経路の3要素が不可欠である。すなわち①微生物を除去する、②感染経路を断つ、③自らの免疫力を高める、のいずれかがあれば、感染には至らない。微生物を除去するために私たちは消毒薬を使ったり、抗生物質を用いて感染症を治療する。感染経路を断つために一番大切なのは手洗いと手指の消毒である。また咳をする人がマスクをして飛沫を防ぐ咳エチケットも有効である。免疫力を高めるためにはワクチンを接種する。また、自分がどれくらい感染症にかかりやすいかを知っておくことも重要である。妊娠中の女性、高齢者、赤ちゃんや幼児、がんや糖尿病患者などは免疫システムが弱くなっており、易感染者（感染症にかかりやすい人のこと）とされる。インフルエンザ流行時には人込みを避けたり、食中毒を起こしやすい生ものを避けたりすることで、感染のリスクを最小限にすることができる。

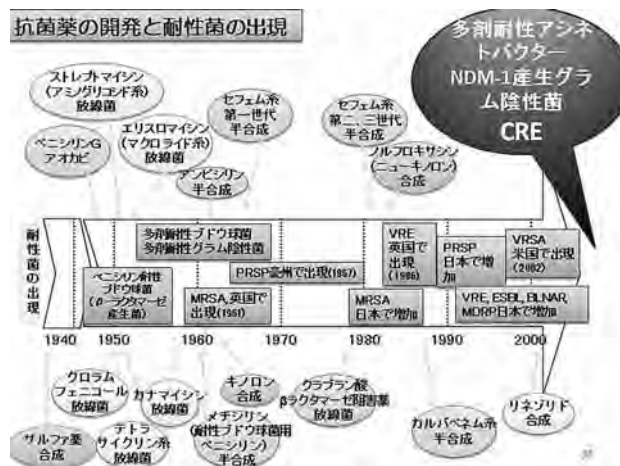


3. 抗生物質と薬剤耐性菌

第2次世界大戦の終息する前までは死亡原因の1位は結核であり、肺炎も猛威を振るっていた。肺炎も結核も細菌が原因の感染症であるが、1945年を境にこれらは激減した。細菌による感染症の

特効薬となる治療薬、抗生物質が開発されたためである。抗生物質とは微生物が産生し、他の微生物の発育を阻止する物質と定義される。最初に発見されたペニシリンは肺炎や化膿性の疾患に著効を示したほか、ストレプトマイシンは結核の治療に有効だった。その後、多くの抗生物質が開発され、命を救われた人の数は知れない。人類は魔法の弾丸（病原体のみ傷害する薬）を手に入れ、感染症は抗生物質で治療できる疾患となった。

しかし、人々は抗生物質を使いすぎて、抗生物質が効かない薬剤耐性菌を出現させた。日本では抗生物質の乱用により、1980年代にほとんどの抗生物質が効かない薬剤耐性菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）が国内に蔓延した。MRSAをはじめとする耐性菌は易感染者の多い病院で院内感染を起こし、現在も問題となっている。世界保健機構（WHO）が中心となり、薬剤耐性菌を出現しないために、抗生物質の適正使用を推進する取り組みが世界中で進められている。抗生物質は十分な量がないと菌は死なず、生き残った菌が耐性菌になる可能性がある。耐性菌を出さないために抗生物質はのみ残しのないよう指示通り飲むことが大切である。



4. ワクチンで防ぐ感染症

ワクチンは免疫をつけるために病原体（細菌やウイルス）を無毒化したり、弱毒化したものであり、ワクチンを接種することを予防接種という。予防接種により免疫ができ、病原体に感染した記憶が残るため、感染症に罹らなかつたり、罹ったとしても重症化を防ぐことができる。2009年新型インフルエンザが流行した際には、流行を防ぐために新型インフルエンザワクチンを誰に打つのが効果的かという論文がサイエンス誌に発表された。論文では「5-19歳までの学童からと30-39歳の両親たちに接種するのが最も有効」と結論付けられた。予防接種は、副反応により、健康な人が疾病にかかる可能性を回避できないが、集団感染防御におけるその重要性は高い。

2013年風疹が大流行し、感染した人は14000人を超えた。風疹の症状は軽いが妊娠初期の妊婦が感染すると胎児に先天性風疹症候群（CRS）起こす。感染した人の多くは予防接種を受ける機会がなかったか、受けても免疫が付きにくかった20～40歳代の男性と20歳代の女性であった。例年CRSの報告は数件であるが、2013年には32件報告されている。大人が風疹ワクチンを打っていれば防げたケースである。風疹のようにウイルス感染症に効く治療薬は少ないが、ワクチンの種類は多い。ワクチンで防げる疾患を確実に防ぐことが重要である。

5. 正しく知って正しく防ごう

インフルエンザ流行時にはマスクを着用する人は多い。しかし、WHOは感染していない人のマスク使用に有効性を認めていない。ウイルスは咳と一緒に飛散し、髪や洋服にもつく。マスクで防げるのは口の周りだけで、髪や洋服についたウイルスを手で触り、鼻や口の粘膜にウイルスが感染する可能性がある。感染防御のためのマスクは不要とは言わないが、過信しないで欲しい。

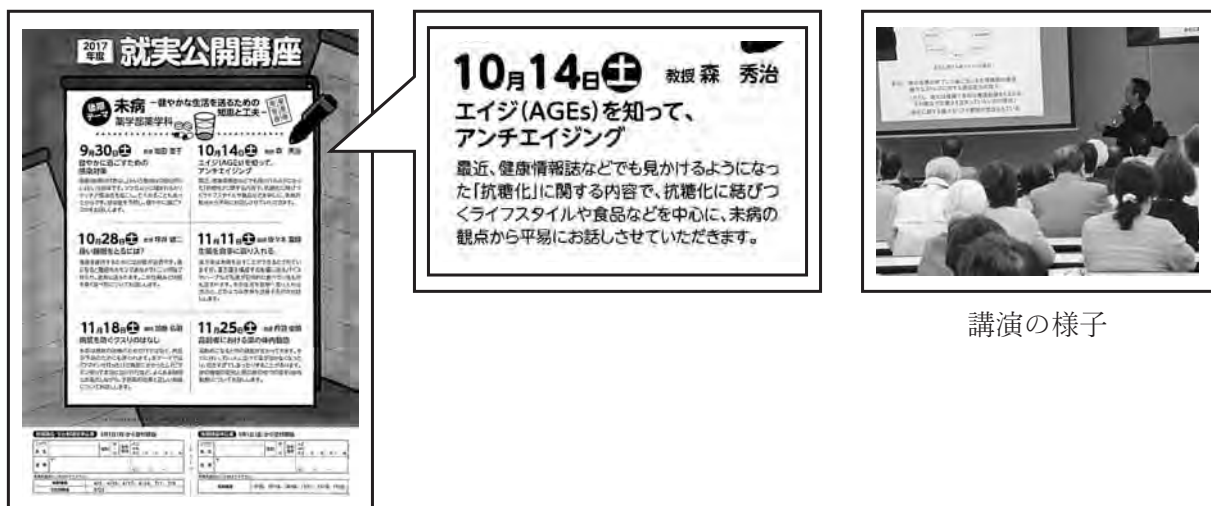
感染予防の基本は、手洗いと手指の消毒による微生物の除去、感染経路の遮断と免疫力を高める3つである。免疫力を高めるためには、健全な生活をし、ストレスをためないことも大切である。

エイジ (AGEs) を知って、アンチエイジング

薬学部 薬学科 教授 森 秀 治

2017年度就実大学公開講座（2017年10月14日開催）において、「エイジ (AGEs) を知って、アンチエイジング」をテーマに講演を行った。AGEsは、私たちの体の中で起こる「糖化反応」によって作られる物質であり、近年、生活習慣病などの増悪化因子あるいは老化物質として注目されている。講演では、生体内で産生されたAGEsがどのようにして悪影響を及ぼすのか、あるいは健やかで若々しい日常生活を営むためにAGEsに対してどのように対処すれば良いのかについて講述を行った。

本講演の流れは、順に、1) アンチエイジングの社会的要求度、2) AGEsとは？、3) AGEs が関係する疾患、4) AGEs による病態増悪化のメカニズム、5) AGEs を知って生活改善の順番であり、様々な年齢層から成る参加者に対して、より理解を深めてもらえるように、各項目ともに解り易さを重視して講述に努めた。以下に、各項目の概要を簡単に説明する。



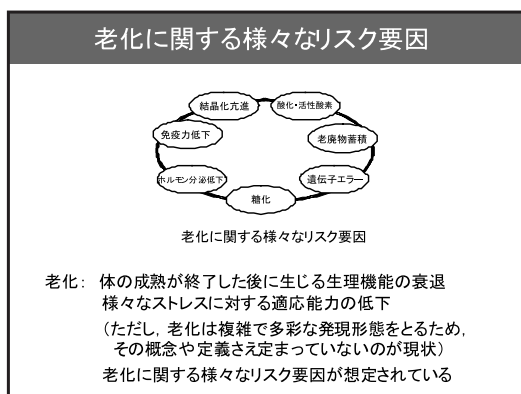
講演の様子

1) アンチエイジングの社会的要求度

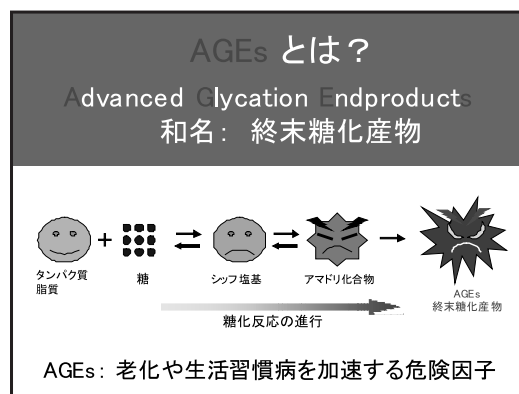
本項目では、「健康に悪そうなものランキング」を手始めに、「人生80年時代における健康寿命をいかに延ばすか」、「老化に関する様々なリスク要因」(図1)について説明し、老化の概念や定義、健康寿命を延ばすための方策としてのアンチエイジングの重要性について述べた。またリスク要因の一つに糖化が重要な意義を持つ事も併せて強調した。

2) AGEs (エイジ) とは？

AGEsは、advanced glycation end productsの略称であり、和名では終末糖化産物と呼ばれる。本項目では、はじめにAGEsが生体内で糖化反応によって産生される「メカニズム」(図2)を説明すると共に、「加齢に関するAGEs蓄積」、「生活習慣病発症に伴うAGEs蓄積の亢進」、「老化の2大要因としての糖化と酸化」、「AGEsが蓄積する2つの経路」、「様々なAGEs種の存在」について講述した。



(図1) 老化に関する様々なリスク要因



(図2) AGEsとは?

3) AGEs が関係する疾患

本項目では、AGEsが炎症の過剰亢進や慢性化を介して、生活習慣病をはじめとする様々な疾患の要因になっていることを説明し、AGEsを作らないようにする事の重要性について述べた。実際には、「AGEsによる血管の衰え」、「AGEsは様々な病気に関係する」、「加齢に伴う老化関連疾患のリスク増大」などについて実例を交えて平易に解説した。

4) AGEs による病態増悪化のメカニズム

本項目では、AGEsによる病態発症や増悪化の原因が、「AGEsによる免疫・炎症反応の過剰亢進」にある事を説明すると共に、この反応が2011年にノーベル賞を受賞した「自然免疫の活性化に関する発見」と同一のメカニズムを介して起きている事やDampsと言われる私達の体内に元々存在している起炎性の因子群がAGEsと類似した反応を起こして病態形成に繋がっている事にも触れた。

5) AGEs を知って、生活改善

本項目では、生体内でのAGEs産生や蓄積を少しでも減らすために生活面の工夫やヒントについて講述した。

実際には、糖化を避ける食事法として、「食品摂取の順番」、「低GI値食品の有用性」、「食事時間の影響」、「糖化と食事回数との関係性」、「食品調理の工夫」、更には「AGEs測定の意味」などについて解説し、日常生活の中でも簡単に取り入れやすい生活改善の実例について講述した。

6) 終わりに

本公開講座では、生活習慣病などの様々な病気の形成や増悪化にAGEsが重要な役割を果たしている事を解説した。

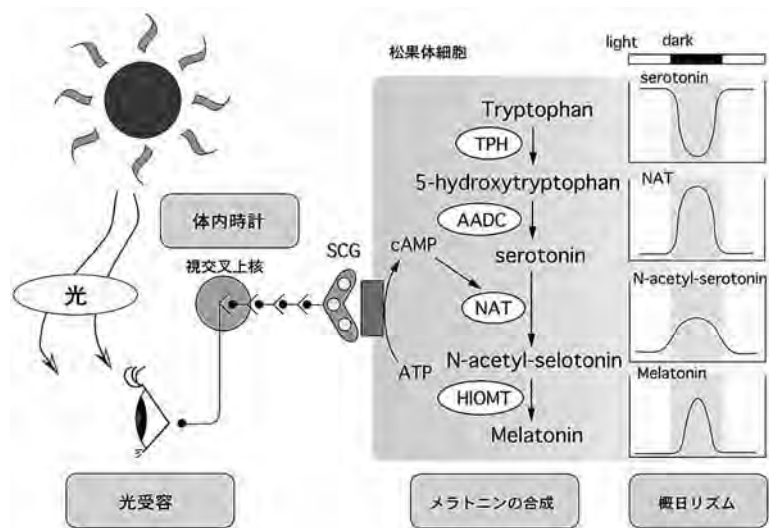
その中で、少しでもAGEsによる悪影響を減らすために生活面で工夫することがとても重要である事に言及し、いわゆる「糖との賢い付き合い方」についてお勧めした。本講座が、いつまでも健やかで若々しいライフスタイルの維持に少しでもお役に立つ事ができるよう願っている。

良い睡眠をとるには？

薬学部 薬学科 教授 坪井 誠 二

はじめに

生物は、広く地球の自転周期に適應するため、約24時間周期の生物リズム（概日リズム）を持っている。概日リズムは、睡眠・覚醒だけでなく自律神経や代謝系といった全身の生理活動に影響を与え、生物が1日の昼夜リズムに伴って効率よく快適に生活していく上で重要なシステムである。このリズムを生み出す生物時計は、単細胞生物からヒトに至るまで広く存在しており、様々な活動や代謝の日内変動を制御している。哺乳類において、生物時計は視床下部の



AADC;aromatic-L-aminoacid decarboxylase HIOMT;hydroxyindole-O-methyltransferase
NAT;serotonin N-acetyltransferase SCG;suprachiasmatic nucleus TPH;tryptophan hydroxylase

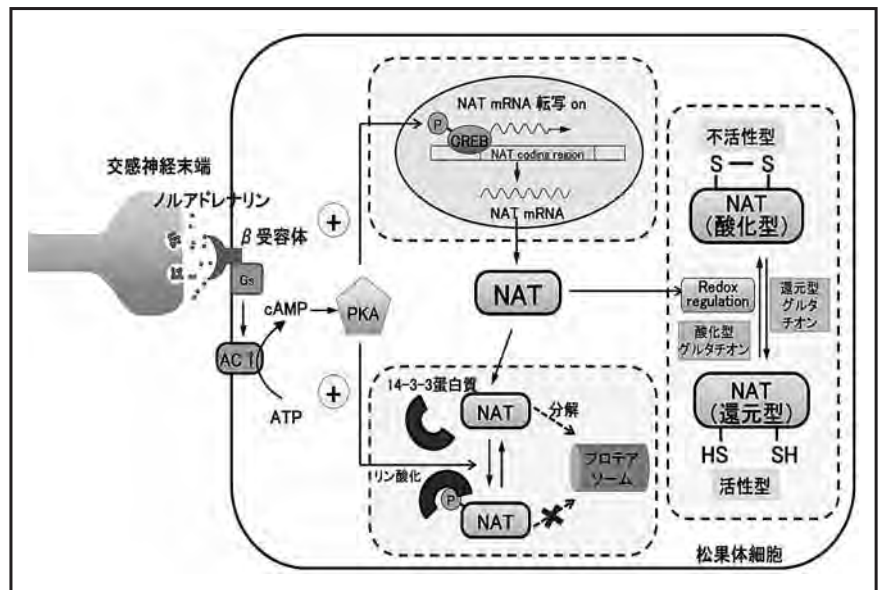
「視交叉上核」と呼ばれる神経細胞集団に存在している。この視交叉上核は、本来約25時間の自律的な内因性のリズムを持っているが、網膜で光刺激を受け、網膜視床下部神経経路を介して時間をリセットする事で、約24時間周期の外界リズムに同調させている。視交叉上核で形成された概日リズムは、上頸部交感神経節の交感神経を介して松果体と呼ばれる内分泌器官に伝えられる。松果体は、概日リズムに応答してメラトニンを合成している。すなわち、松果体のメラトニン量は昼間は非常に低レベル（ほとんど0）に抑えられているが、夜間に劇的に上昇して真夜中頃にピークとなり、その後急速に減じ、朝方には消失する。メラトニンは合成後直ちに血中に放出され、体中を循環し、メラトニン受容体を介して時間情報を全身に伝える。メラトニンは時間情報ホルモンであり、松果体は時間情報を液性情報に変換する装置である。

メラトニンは血中より供給されるL-トリプトファンを前駆物質としてトリプトファンヒドロキシラーゼと芳香族L-アミノ酸カルボキシラーゼの2つの酵素によりセロトニンに変換された後、NATとヒドロキシインドール-O-メチルトランスフェラーゼにより合成される。これらの酵素のうちNATが最もよく時間情報に应答し、その活性は強いリズム性を示す。つまり、NAT活性の変動とメラトニンの合成量はほぼ対応しており、NATはメラトニン合成の律速酵素である。従って、概日リズムの形成と維持機構を明らかにする上で、松果体におけるNAT活性の調節機構の全貌を明らかにする事は極めて重要である。

NATの制御機構

転写調節レベルでの制御：生体時計によるNAT活性の制御機構の研究は、転写調節制御とタンパク質レベルでの活性制御の両方向から研究が進められてきた。転写調節による制御については、ラットやヒトの細胞を用いてこれまでに次のカスケードが明らかになっている。すなわち、時間情

報により夜間に交感神経末端より放出されたノルアドレナリンは、松果体細胞上のβ受容体に結合し、Gsタンパク質を介してアデニル酸シクラーゼを活性化し細胞内のcAMP濃度を上昇させる。その結果、Aキナーゼが活性化され、転写因子CREBがリン酸化される。リン酸化CREBはNAT遺伝子の転写量を増加させ、その結果、NAT活性が上



昇しメラトニン出力が増加する。この一連のカスケードは夜間にのみ起こる。明け方には交感神経からのノルアドレナリン入力がなくなり、NAT活性とメラトニン出力もなくなる。ヒツジ等の有蹄類においても、同様にNAT活性は昼低く（ほとんど検出されない）夜高いというリズム性を示すが、NAT遺伝子の転写量は昼と夜の間でほとんど差がない。従って、この場合はラットやヒトで見られるような転写調節による活性制御より、後述するタンパク質レベルでの活性制御が優勢であると考えられる。

タンパク質レベルでの制御：タンパク質レベルでの制御は次のように理解されている。すなわち、ノルアドレナリン刺激により活性化されたAキナーゼはNATタンパク質自体をもリン酸化する。NATタンパク質は、昼間はプロテアソームにおいて分解されているため検出できないが、夜間、リン酸化されたNATにはシャペロンである 14-3-3 タンパク質が結合する。そのためこの複合体はプロテアソームで分解されず活性を維持していることが明らかとなっている

グルタチオンによるNATのレドックス制御機構：グルタチオンは種々の生物に高濃度に存在するトリペプチドであり、細胞内の主な非タンパク性チオールである。グルタチオンは抗酸化作用等種々の生理活性を持つことが知られており、生体防御機構において重要な役割を果たしている。また、脳内グルタチオンは睡眠リズムに一致したサーカディアンリズムを持って変動することから内因性睡眠物質であることが知られている。我々はこのグルタチオンによりNATの分子内 -SH/-S-S- 結合の変換が起こり、NATの活性を制御していることを明らかにした。我々の得たこの結果はNATの制御について重要な意味があると考えられる。すなわち、既知の制御機構だけでなく細胞内の酸化・還元状態によっても制御されている可能性があるわけである。

終わりに

細胞内の酸化・還元状態でオン・オフが切り替わるというNAT活性の分子内スイッチを同定した。このスイッチの切り替えにグルタチオンが重要な働きをしており、前述した睡眠効果とは異なったメカニズムでのグルタチオンによる概日リズム制御であった。今回明らかにした成果は、細胞内の酸化・還元状態によりNAT活性が制御できること、即ち、細胞内中のグルタチオンの酸化・還元状態を調節することによりメラトニンの合成を制御し、最終的に人工的に概日リズムを制御する方法の開発につながるものと考えている。実際、細胞中グルタチオン量を増加させる物質が報告されており、臨床への応用が期待されている。

生薬を食事に取り入れる

薬学部 薬学科 講師 佐々木 寛 朗

未病の状態は、西洋医学的に診断できず、病名がはっきりしないことが多い。この未病には漢方薬などの東洋医学による治療が向いている（図1）。漢方薬は未病を治すことができるとされているが、ほとんどの処方では複数の生薬を組み合わせている。生薬とは天然に存在する植物、動物、鉱物から有効成分を精製することなく用いる薬のことであり、スパイスやハーブなど私達が日常的に食べているものも含まれる。いくつかの生薬は容易に入手可能であり、これらを食事に取り入れることで未病を治すことが期待できる。

中国より伝えられた思想である陰陽説は、自然界のあらゆるものは陰と陽とで構成されているという思想である。陰陽説に従うと、人の体の中で陰と陽とがそれぞれ増減しながら循環し、私たちの身体も健康な状態を保っていると考えられる。寒熱における陰と陽では、体が冷えている寒の状態は陰、熱っぽい熱の状態は陽であるといえる。

五性は陰陽の性質を熱性、温性、平性、涼性、寒性の5段階に分けたものである。熱性・温性の食材は体が冷えている人に適しており、冷えによる下痢や食欲不振によい。涼性・寒性の食材は体が熱っぽい人に適しており、発熱、のどの渇き、のぼせ、ほてりなどによい。五味は、味を酸味、苦味、甘味、辛味、鹹味の5種類に分類したものであり、味の違いにより作用が異なる。

人の体は、気・血・水という3つの要素から成り立っている（図2）。この3つは互いに影響し合っていて、全身の気・血・水のバランスが崩れると、体に不調が起こる原因となる。気・血・水のバランスが崩れた状態は気虚、気滞、血虚、瘀血、水毒などに分けられる。気虚は気が不足している状態、気滞は気の巡りが悪い状態、血虚は血が不足している状態、瘀血は血の巡りが悪い状態、水毒は水の巡りが悪い状態である。

これらの状態に対して、適した食材を用いることが望ましい。気・血・水のバランスが崩れた状態に対して有効な生薬で、食事に取り入れることができるものを次に挙げる。

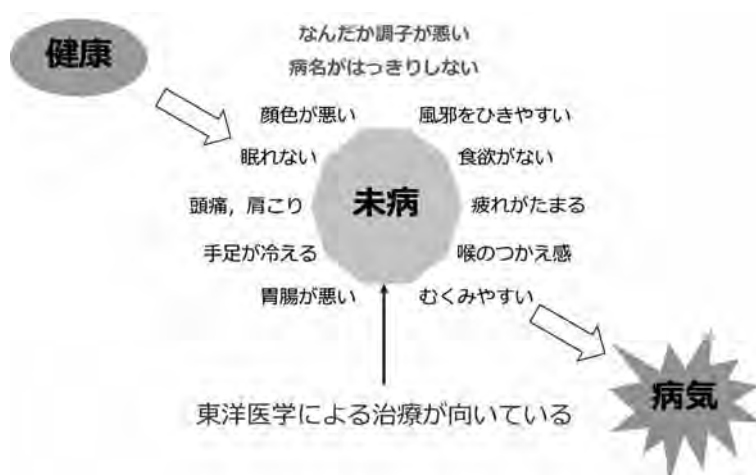


図1 未病と治療



図2 気・血・水

人参（ニンジン）はウコギ科オタネニンジン *Panax ginseng* C. A. Meyer の根であり、気虚などを改善する作用がある。人参はセリ科のにんじん（野菜）とは異なり、高麗人参、朝鮮人参ともいう。胃腸の気を補って食欲不振や四肢の無力感、下痢を改善したり、肺の気を補って呼吸困難や息切れ、咳を改善したりする。体に潤いを補って熱や乾きによる消耗を癒し、精神を安定させる。

山薬（サンヤク）はヤマノイモ科ヤマノイモ *Dioscorea japonica* Thunberg またはナガイモ *Dioscorea batatas* Decaisne の周皮を除いた根茎であり、気虚などを改善する作用がある。ヤマノイモをジネンジョウ（自然生）、ジネンジョ（自然薯）、ヤマイモ（山芋）ともいう。脾、肺、腎の気血水を補い、疲労回復や、滋養強壯を目的に用いられる。

陳皮（チンピ）はミカン科ウンシュウミカン *Citrus unshiu* Markovich または *Citrus reticulata* Blanco の成熟した果皮であり、気滞などを改善する作用がある。消化吸収力を高めるので、気の滞りによる消化不良や腹部膨満感、食欲不振、吐き気、下痢を改善する。肺にたまった余分な湿気を取り除き、痰の多いせきを改善する効果もある。

大棗（タイソウ）はクロウメモドキ科ナツメ *Zizyphus jujuba* Miller var. *inermis* Rehder の果実であり、気虚や血虚などを改善する作用がある。胃腸の調子を整えて体力を回復する作用があり、滋養強壯に効果が期待できる。気持ちの落ち込みやイライラ、不眠など、心のトラブルも解消する。

枸杞子（クコシ）はナス科クコ *Lycium chinense* Miller または *Lycium barbarum* Linné の果実であり、血虚などを改善する作用がある。気や血を補って生命力をアップさせる効果があり、滋養強壯や疲労回復、めまい、耳鳴りなど期待できる。

サフランはアヤメ科サフラン *Crocus sativus* Linné の柱頭であり、血虚や瘀血などを改善する作用がある。サフランはひとつの花から3本しか採れない高価なスパイスである。血液の循環を高めて、血行不良による痛みや内出血を予防する。特に、婦人科系の月経不順や更年期障害に効果を発揮する。イライラやストレスも解消する。

生姜（ショウキョウ）はショウガ科ショウガ *Zingiber officinale* Roscoe の根茎であり、気虚や水毒などを改善する作用がある。体を温める作用が強い。寒気を感じるような風邪の初期に食べると、一気に体温を上げて、発汗を促し、熱を下げて関節の痛みを和らげる。また、胃腸を温めるので、冷えによる下痢や嘔吐、食欲不振を緩和する。

乾姜（ショウキョウ）は生姜（ショウキョウ）と同じ基原植物であるショウガ科ショウガの根茎であるが、ショウガを乾燥させる前に湯通し（100℃）処理をしたものである。カンキョウはショウキョウよりも特に温める作用が強く、カンキョウでは特に冷え症、胃腸の冷えている下痢や腹痛などに作用する。これはショウガを湯通しすることにより、ショウガの成分であるジンゲロールがショウガオールに変化することによるものである。ショウガは煮ることで湯通しと同じ化学変化を起こすことができ、特に冷えのある時にこのような調理はよいとされる。

唐辛子（トウガラシ）はナス科トウガラシ *Capsicum annuum* Linné の果実であり、気滞や瘀血などを改善する作用がある。体を温める作用が非常に強く、胃腸を温めて消化を促進し、食欲不振や胃もたれ、おなかのハリ、吐き気、下痢を解消する。また、余分な水分を汗と尿として排出するので、むくみやだるさを改善する。

気・血・水のバランスが崩れた状態は未病または病気の状態である。食事のバランスは栄養素の面から考えることはもちろん重要であるが、寒・熱や気・血・水のバランスから考えることも有効である。

病気を防ぐクスリのはなし

薬学部 薬学科 ○講師○ 加地 弘明

概要

薬は、①対症療法（風邪薬、降圧薬など）、②原因療法（抗生物質、抗がん剤など）、③補充療法（インスリン、ビタミン剤など）、④予防（ワクチン、抗凝固薬など）といった様々な目的で使用されている。今回、病気を予防するおクスリに焦点を当て、それらの薬について詳細に講義するとともに、予防薬に関する日ごろの疑問についてQ&A方式で分かりやすく解説した。

薬について

薬は病気となった体を治療するため、または健康な体を維持するために使用する物であるが、用量・用法などを間違えてしまうと体に悪影響を及ぼしてしまう。数多く薬を服用する人や高齢者などでは特に注意が必要である。知識があればある程度の有害作用を防ぐことができるが、間違った知識は薬物治療の効果を妨げる。従って、薬についての知識を使用者自身が知っておくことはとても重要である。また、医薬品には医師・歯科医師の診断を受け、薬が必要と判断された場合に発行される処方せんに基づいて薬剤師が調剤する「医療用医薬品」と、薬局やドラッグストアなどに置いてあり、薬剤師などから提供された適切な情報に基づいて自らの判断で購入し自らの責任で使用する「一般用医薬品」が存在する。医療用医薬品は医師の診断により受診者のけがや病気の程度に合わせて種類や量が決められているので、処方された人以外には使ってはいけないことに留意しておかなければならない。さらに、薬によっては他の薬や飲食物と相互作用を起こすもの、管理方法や使用方法を誤れば薬効が変化してしまうもの、なども存在しており、薬を受け取る際には正しい情報も併せて受け取らなければならないと言える。

ワクチンについて

古代ギリシャの歴史家トゥキディデスの著作である「戦史」には、免疫現象が2度なし現象（一度かかった病気には2度とかからなかったり、かかったとしても症状が軽くて済む現象）として記されており、人は古くから経験的に免疫現象のことを知っていた。年は流れ18世紀末にエドワード・ジェンナーが牛痘に罹った牛の乳しぼりの女性が天然痘に罹らないことを観察し、牛痘の膿を子供へ接種することで天然痘を予防できることを発見した。さらに、19世紀初旬にはルイ・パスツールがジェンナーの行った牛痘の人体接種法を他の病原体による伝染病予防法へと応用し、この二人の功績が現代におけるワクチン療法の礎となった。そもそもワクチンとは病原微生物を弱毒化または無毒化した本体、その一部、無毒化された毒素などのことで、免疫系に病原微生物の記憶を植え付け、実際の病原微生物侵入時に速やかに免疫応答を誘導させるために用いられる。ワクチンであるための要件としては、投与するのに安全である事、適切な種類の免疫を誘導すること、必要な病原体の量が入手可能である事、などがあげられる。また、ワクチンには国が接種を強く推奨する勧奨接種ワクチン（3種混合ワクチン、麻疹ワクチンなど）と、自費で受けるかどうかを個人で判断する任意接種ワクチン（インフルエンザワクチン、水痘ワクチンなど）に分類されている。

感染症以外にもワクチンは応用されつつある。癌ワクチンやアレルギーワクチン、抗妊娠ワクチンなどである。しかし、これらは技術的・倫理的な問題点から、実験的に使用されることがあっても、未だ実用化には至っていない。

その他の予防薬について

ワクチン以外に予防薬として用いられる薬物はそれほど多くはない。

・抗菌薬、抗ウイルス薬

タミフル®などのインフルエンザに用いられる薬は、インフルエンザを発症した人と接触してから2日以内に通常の一日量の半量を倍の時間かけて投与されることがある。また、抗生物質などの抗菌薬は手術箇所の術後感染予防を目的に使用が認められている。

・抗凝固薬、抗血小板薬（ワーファリン®、アスピリンなど）

血栓症を発症した患者は、一旦治療により回復したとしてもその再発リスクは高い。従って、血栓の形成を防ぐための薬が血栓症の予防に用いられる。

・偏頭痛予防薬

血管を拡張させる薬、神経細胞の興奮を抑制する薬、片頭痛に関係深いセロトニンの代謝を改善する薬などが片頭痛の予防薬として用いられている。

・その他

ビタミン剤、漢方薬などが病気にならない体を作るために用いられている。また、医薬品ではないが、精油を用いたアロマセラピーも病気の予防に有効であると考えられている。

予防薬Q&A（抜粋）

Q インフルエンザワクチンを毎年打つのは何故？

A インフルエンザウイルスはRNAウイルスであり、性質が変化しやすいという特徴がある。ワクチンは毎年流行期前にウイルスの形を予測して作成されるため、毎年打つことが推奨されている。

Q インフルエンザワクチンを接種してもインフルエンザに罹るのは何故？

A いくつかの理由があり、予測したウイルスの形が違っていた、免疫系が反応しなかった・弱かった、ワクチン製造の過程で変異が生じた、などが考えられる。

Q ワクチンを接種したら会計まで結構待たされるのは何故？

A ワクチンはヒトにとって異物であり、免疫系による排除の対象となる物質であるため、ワクチン接種により免疫系が過剰に反応する場合がある（アナフィラキシーショック）。このショック症状は一般的に接種後30分以内に生じるので、医療機関内にとどまっていればすぐに対処ができる。従って、待たされる時間＝副作用の様子見の時間ととらえることができる。

Q ビタミンCは本当に風邪を治したり、予防したりするの？

A 風邪はウイルス感染によるものであり、これを治すのは自然治癒力であるためビタミンCが風邪に直接効果があるわけではない。また、ビタミンCによる風邪予防に関しても確固たるエビデンスは存在しない。したがって、科学的には証明されていないと言える。しかし、ビタミンCには抗酸化作用だけでなく様々な作用があり、今後新たな作用が加わるかもしれない。

参考資料

- ・インフルエンザQ&A（厚生労働省HP）
- ・免疫学イラストレイテッド（南江堂）
- ・ビジュアル生化学・分子生物学（日本医事新報社）
- ・今日の治療薬2016（南江堂）
- ・エッセンシャル免疫学（メディカルサイエンスインターナショナル）
- ・医薬品の正しい使い方（岡山県学校薬剤師会 HP）
- ・なるほど病気ガイド（アステラス製薬）
- ・慢性頭痛の診療ガイドライン2013（日本頭痛学会）
- ・肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症 予防ガイドライン（日本循環器学会）

平成29年度 就実大学公開講座 薬学部 6 回目 「高齢者におけるくすりの体内動態」

薬学部 薬学科 教授 柴田 隆 司

1. 薬の体内での動き（薬物動態）、2. 高齢者での体の変化、3. 薬の効き方の年齢による影響 という流れで講座を展開した。

1. 薬学部の科目の中で、基礎科目の修了後により臨床に近い科目を学習するが、人への適用を科学的に考える科目として薬剤学があり、その中で生物薬剤学、物理薬剤学、製剤学などで構成されている。

物質から医薬品という投与部位に応じた剤型が開発されている。薬効や安全性を配慮した形が必要であり、薬学部の講義では薬剤学がこの問題を扱っている。薬物は生体の中に取り込まれてからは、吸収、分布、代謝、排泄という流れに従う。錠剤などは形が崩壊し分散され溶解してから血液内に入って行く。その後、血液内ではアルブミンや α 1酸性糖たんぱく質などに結合した結合型または遊離型として存在する。なお組織分布及び作用を示すものは遊離型である。代謝の様式として、肝臓においてシトクロームP450による代謝、加水分解、抱合反応などがある。シトクロームP450には多くの種類があり、また、個人差も多いことが知られている。特に脂溶性の高い薬物は肝臓で代謝されるので影響を受けやすい。腎臓において薬物が排泄されるが、腎臓の機能に応じて薬物が排泄される。この腎機能は腎臓で排泄のみされる筋肉由来のクレアチニンの血漿中濃度を測定することで推定される。健康診断でも検査される項目である。これで示される腎機能に応じて、腎排泄型薬物の投与量が設定されるのが望ましい。

2. 高齢者での体の変化として、体の構成成分の脂肪が増大、肝臓の機能が低下、腎臓機能の低下などが指摘される。前述したアルブミンや α 1酸性糖たんぱく質が減少し薬物の体の中での分布の様子に変化が現れる。代謝機能の変化も加齢とともに大きく減少するもの、ほとんど変化が無いものなどパターンが分かれる。排泄臓器の腎臓も機能が低下することにより必要となる薬物量も減少する傾向がある。

3. 高齢者の薬物動態は、吸収能力の減少、体脂肪率や水分の割合、血漿中のアルブミンや α 1酸性糖たんぱく質の増減で分布様式に変化が生じる。代謝臓器の肝臓機能低下により、処理能力が低下し体内に残存する時間が延長する。排泄臓器の腎臓も機能が低下して同様となる。一般的に薬物の血中濃度の推移が若年者と比べ持続性が増大する傾向にある。

薬物の特性により一般論は成立しないが、医薬品として認められている薬物は、その特徴が各医薬品の添付文書に記載されている。高齢者で注意する項目があるので参照することが出来る。詳しいことは、身近の医師や薬剤師に尋ねていただきたい。

なお、今回の講演は薬剤学系の丹羽教授が担当する予定であったが、所用により柴田が担当した。講演内容は丹羽教授の資料をもとに、柴田が一部、改変して講演させていただいた。

文化財講座

(平成29年5月28日)

子午線と魚の街・明石の魅力を体験

人文科学部 総合歴史学科 教授 吉本 勇

2017年5月28日（日）に本学文化財講座が開催された。（参加者は23名）表題のテーマで、兵庫県明石市にある「アサヒ飲料明石工場」、「魚の棚商店街」、「明石市立天文科学館」を訪ねた。兵庫県明石市は淡路島と向かいあった港町と知られ、また瀬戸内の海の幸に恵まれた漁業の町および東経135度の子午線が通る日本の標準時の町として知られている。また大消費地である京阪神に近いために、各種工場が臨海部や高速道路沿いに立地しています。本講座ではその魅力の一端を堪能することを目的として実施した。今回は参加者23名と本学の総合歴史学科教授の吉本が案内役となった。午前8時頃に就実大学正門を出発して山陽自動車道を走って明石へと向かった。

*見学先は、「アサヒ飲料明石工場」でのソフトドリンクの製造工程見学、「魚の棚商店街」では市場感覚で楽しめる街の散策、「明石市立天文科学館」ではプラネタリウム体験などを楽しんだ。

① アサヒ飲料明石工場

2011年にリニューアルされた工場で、兵庫県生まれの三ツ矢サイダーや茶、缶コーヒーなどの製品ができるまでを学ぶことができる国内最大級の製造能力を誇るアサヒ飲料の拠点工場です。フレッシュオリティ製法やペットボトルを工場内で製造できるアセプティック充填ライン（無菌充填）をはじめとした新技術が導入され、原料の搬入、計量、抽出まで全てコンピューターによって自動化されており、年間3000万ケースの最大生産能力を誇っています。

ここでは、教室をイメージしたゲストホールで、工場の簡単な概要を映像で見ることから始まり、見学コースでは各種飲料などの瓶、缶などの製造過程を見学しました。また兵庫県内で（医療用の飲料として）誕生した三ツ矢サイダーの歴史紹介や原材料（茶、コーヒー）に触ることができるコーナー、炭酸飲料の音と映像で泡に包まれた感覚になれる体験ゾーンなどを楽しむことができ、見学終了後は製品の試飲もできた。これからはこのような飲料水を購入する時には、製造工程を思い浮かべながら喉を潤おすかもしれません。最後に工場玄関前で記念撮影をしました。

② 魚の棚（うおんたな）商店街

「うおんたな」と呼ばれる商店街は、約400年前に明石城の築城とともに誕生したといわれる歴史ある商店街で、宮本武蔵による城下町の町割り設計によって造られたといわれる市場があります。全長350mのアーケードに明石特産の海の幸や練り製品、海産物の乾物などを扱う商店を中心に約110店舗が建ち並んでいます。

ここでは、各自が昼食として名物の明石焼き（地元では玉子焼きと呼ぶ）をはじめ、明石沖の魚介類（明石ダコ、明石ダイなど）などを堪能でき、また土産物を購入するなど、観光客や地元住民でにぎわう商店街の散策を楽しんだ。

③ 明石市立天文科学館

1960年に開館された明石天文科学館は、玄関横を通る子午線上に漏刻が設置され、「J S T M（Japan Time Meridian＝日本標準時子午線）」と表示された時計塔があります。この塔は東

経135度の日本標準時子午線上に建設されている。1995年の阪神・淡路大震災で被害を受けたが、1998年に新装開館した。当時の建設省が発表した公共建築百選に選ばれました。またのちに建物が国の登録有形文化財にも登録されました。とくにプラネタリウムが有名で、カール・ツァイス・イエナ社（旧東ドイツ）の大型投影機は世界で5番目に古い投影機である。プラネタリウムでは、見学者は子供の頃に宇宙空間を想像した記憶をよみがえらせた。プラネタリウム関連のイベントでは、日本プラ寝タリウム学会が主催する、自分の枕を持ち込んでの天体観測体験など、様々なイベントが開催されている。機会があれば楽しんでもらえればと思います。その他にも時間をテーマとした「時のギャラリー」などの見学、日時計広場からの眺望（明石海峡大橋、明石海峡、淡路島など）も楽しみました。

今回の参加者は、子供の頃の遠足や社会科見学で訪れた時の記憶が蘇りました。

幸いに天候に恵まれ、各種見学先などについてのアンケートによると、参加者からは概ね好評であったと思う。普段は訪れることのない工場やプラネタリウム、明石の街並みを堪能することができたと思う。まだまだ阪神間には魅力的な地場産業や町並みが存在しますので、この講座に参加したことにより、興味を持っていただければと思います。最後になりましたが、暑い中参加してくださった受講生の皆様、添乗してくださった職員に感謝する次第である。



写真（左）：天文科学館内に設置されている
子午線表示



写真（右）日時計広場からの眺望

学科・研究所・センター等主催事業

主 催	就実大学表現文化学会『落語の世界—口語表現の多様性を探る—』		
行 事 名	公開学術講演会		
講 師	桂小文吾（落語家）		
日 時	平成29年10月14日	場 所	R501
対 象 者	一般・本学学生	参加人数	210名（うち一般20名）

概要

平成29年10月14日（土）表現文化学会を開催し、記念講演会では現在鳥取県米子を中心に活動されている落語家の桂小文吾師をお迎えして、『落語の世界—口語表現の多様性を探る—』と題して公開・実施した。小文吾師はご高齢にもかかわらず、落語会をはじめ、若手の育成など積極的に活動されている方で、今回は現代ではほとんど演じられない「長名息子」「二日酔い」の二題と「落語の面白さ」についてインタビューをおこなった。

「長名息子」は「寿限無」の原型で、演じ方によって最後のサゲ（オチ）を変化させる方法の多様性を、「二日酔い」は「替り目」の原型で、今では不適切な表現も含まれているので現代風に演じてみせるなど、口語表現の多用な変化を用いながら、古典落語を現在によみがえらせる工夫などの解説が行われた。学生たちは豊かな言葉の世界に引き込まれていたようである。



主 催	表現文化学科		
行 事 名	「就実表現文化のつどい2017」		
講 師	折田 克子 (舞踊家)、熊谷 乃理子 (アシスタント) 山口 晶子 (ピアノ伴奏)		
日 時	平成29年 5月27日	場 所	T608 (実技) T611 (講義)
対 象 者	表現文科学科学生、教員他、 他大学学生、大阪、兵庫、 香川含め地域の指導者・愛 好者	参加人数	60名 (実技) 100名 (講義)

概要

KATSUKO ORITA

2017
就実表現文化のつどい

「うごく」
U - GO - KU

日時
The date and
5.27 SAT
13:00~16:00

会場
MEETING PLACE
就実大学 T館 6F T608
岡山市中区西川原 1-6-1
JR山陽本線・赤穂線「西川原」駅下車徒歩3分

定員
CAPACITY
申込順 50名 (別途、若干見学可能)

参加費
ENTRY FEE
無料

対象
TARGET
身体表現に興味のある人、経験不問
※動きやすい服装でご参加ください。

内容
CONTENTS
実技と講座 (お話、ビデオ上映等)
・からだを少し知ってみよう ・呼吸とうごき、リズム
・ダンスって何だろう

photoC (後) テス大福

石井みどり 折田克子 舞踊研究家 日本舞踊のモダンダンス界を
牽引した舞踊家の母。石井みどり舞踊学校校長、舞踊家、舞踊家として、2003年に芸術家賞、2004年に日本舞踊協会賞を受賞。全国舞踊コンクール
大会賞も3度受賞するなど数々の受賞歴を持つ。国内・海外にわたり、その活動は舞踊界のみにと
どまらず、音楽、演劇界においても幅広く展開している。社団法人現代舞踊協会常務理事。

講師・お話し
折田 克子
舞踊家

ピアノ伴奏
山口 晶子
AKIKO YAMAGUCHI
宇都宮県立大学准教授、リトミック研究センター研究員

お問い合わせ
お申し込み
園本悦子研究室 maibetsuko@shuiffsu.ac.jp tel&fax: 086-271-8152
主催：就実大学人文科学部表現文化学科 協力：石井みどり・折田克子舞踊研究所

紫綬褒章・旭日小綬章を受章し、79歳の現在もなお世界で活躍する現代舞踊家折田克子氏を講師に招いて、就実表現文化のつどい2017を開催しました。

前半は、T608ダンス室で実技、後半はT611音楽ホールで講義が行われました。

呼吸と連動する動きやリズム、重力に抵抗した立ち方や、「重心」の滑らかな移しによって動きの自由度が増すこと、意識は、常に全身に巡らせると同時に、他者や場という空間にも開いていくものであることなど、シンプルながらもまさに「体のことを体で知っていく」新鮮なワークに、参加者は目を輝かせて取り組みました。

後半の講義では、過去の作品の写真や映像を通して、「現代舞踊が、身体運動だけでなく照明や音響、衣装を含めて創造する総合芸術であること」や、創作当時の時代背景について語られました。

参加者は、学科内の学生だけでなく、教員や他学科の学生、他大学学生、地域の指導者や芸術愛好家が隣県からも集まり、学生らにとって学びの多い交流の場ともなりました。

主	催	人文科学部・実践英語学科		
行	事	ITCL 第44回日本公演 就実大学公演『十二夜』		
講	師	International Theatre Company London		
日	時	平成29年 5月17日	場 所	本学R601教室
対	象	学生、教員、一般	参加人数	350名

概要

2017年度就実大学実践英語学科主催International Theatre Company Londonによるシェイクスピア演劇 *Twelfth Night* (『十二夜』) の公演が5月17日(水)午後3時30分よりR館601講義室にて行われた。

舞台はイリリアという古代バルカン半島の西側に存在した国名。双子の兄妹セバスチャンとヴァイオラの乗った船は嵐に遭い難破し、二人は互いが亡くなったと信じ込んでいた。イリリアのオーシーノー公爵は伯爵の娘オリヴィアに求愛するが、彼女は兄を亡くし喪に服しておりオーシーノーの気持ちを受け入れられない。ヴァイオラは自分と同じ身の上のオリヴィアのことを知り、男装してシザーリオと名乗り、オーシーノーの屋敷に仕える。オリヴィアはシザーリオ(男装したヴァイオラ)を一目見て恋に落ちるが、シザーリオは密かにオーシーノーに恋心を抱き困惑する。船乗りのアントーニオに助けられた双子の兄セバスチャンがオリヴィアの前に現れ、シザーリオだと思い込んだ彼女は彼に求婚する。セバスチャンとシザーリオが再会し、シザーリオは自分がヴァイオラという女だと皆に告げる。オーシーノーはオリヴィアとセバスチャンの結婚を許し、ヴァイオラを妻として迎える。

本公演では、俳優たちによる豊かなハーモニーの歌声がシェイクスピアによる台詞と効果的に混ざり合い、登場人物達の心情を音楽的に美しく表現していた。オーシーノー公爵以外に貴族のアンドルーや執事のマルヴォーリオがオリヴィアに想いを寄せ様々な恋愛感情が交錯する中、観客に手拍子を求めたり、楽器や小道具を駆使して笑いを誘ったりする場面が多く、言葉の壁を超えた演出も見事であった。

毎年、本公演は一般の方々からも好評であり「本場英国からの生の演劇にいつも感動しています」という声を多く頂いた。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	就実大学実践英語学科TOEIC600点突破公開講座		
講 師	和栗 了（就実大学教授）、渡辺 浩（就実大学教授）		
日 時	平成29年6月3、10、17、24日	場 所	S101
対 象 者	本学大学・短大生、高校生・大学生・一般社会人	参加人数	50名程度

概要（本文・写真・図等）

本年度6月4回の土曜日（3、10、17、24日）に「就実大学実践英語学科TOEICテスト600点突破公開講座」を実施し、好評のうちに無事終了することができた。2008年度に第1回を実施して以来本年度で9回目となり、毎年一般の皆様からの問い合わせがあり、TOEICテストに関する関心と需要の高まりを感じる次第である。

例年と同じく岡山市内や県下の高校、公民館に対する案内、また新聞や情報誌などへの案内を行い、参加希望者への案内を行った。就実学園内の大学・短大生、また高校生も多数参加し、市内や近隣地域から多くの社会人・学生の皆様に参加いただいた。平均して毎回50人前後の方々に参加していただいた。

リーディングパート（3、10日）を和栗教授が担当、リスニングパート（17、24日）を渡辺教授が担当で実施し、好評の内に講座を終了することができた。近年TOEICを社員採用時の目安や研修に採用する企業も増えており、また社会人の方々には個人の実践英語学習の一環として行いたいという要望も増えている。また高校生も受験勉強の一環として速読やリスニングの力を付けたいと希望している様子である。

単に重要語句を覚えるだけでなく、実際に使用されている状況を確認できる点が良かったと考えられる。最後のアンケートにも、「実際の使い方が分かった」、「効率的な勉強法が理解できた」、「自分でも試験をどんどん受けてみたい」等、好評を頂くことができた。今後も参加者の意見を反映させて、極力要望に応える公開講座を実施してゆきたい。



主 催	教育学部初等教育学科（初等教育学会） ※後援：岡山市教育委員会		
行 事 名	初等教育学会公開教育講演会		
講 師	菊池 省三（教育実践研究家、元小学校教諭、「菊池道場」主宰）		
日 時	平成29年12月16日	場 所	本学R601教室
対 象 者	学生・教職員・一般	参加人数	423名

概要

本年度の初等教育学会講演会は、「プロフェッショナル 仕事の流儀」や「世界一受けたい授業」等のテレビ番組でも取り上げられ、“学級崩壊立て直し人”として知られる著名な教育実践研究家の菊池省三先生（「菊池道場」主宰）をお招きし、「人を育てる ～33年間の教職人生で最も大切にしてきたこと～」と題して、ご講演いただきました。

講演の冒頭、菊池先生は、フロア参加者に「本気の拍手」をするよう言われました。これは、「拍手あふれる学級」をつくりたいという菊池先生の信念に端を発していること、また、拍手は子どもの存在・価値を認め、子どもの「居場所」をつくっていく上での大事な方法の一つであることが、その後の講演が進むにつれ、明らかになっていきました。「居場所」をつくることで子どもに自信を持たせたい—その思いから生まれたのが「価値語」などであることが分かりました。

終了後、参加者からは、「菊池先生の講演会を聞いて、4年間で一番楽しい講演会だったな」と思います。菊池先生がされてきた工夫や努力は来年の4月から教壇に立つ身として、非常に勉強になりました。私が教員になった際は、子どもたちの良さを永遠に語れるぐらいに知り、褒めてあげたいと思います」（4年生）、「自分の学級経営の仕方に疑問を持っていたこの今、機会をいただけてありがたかったです。どんな時でも人は変わると私も信じてまた頑張ります」（一般参加者）など、菊池先生に対し、数多くの感動と感謝の声が寄せられました。

今回の講演会には、現職教員として活躍する卒業生も含め、県内各地から合計151名もの一般参加者が来場されました。将来教職を目指す学生や、日頃から子どもとのより良い接し方を深く模索しておられる現場の教員の方々にとって、希望の指針となるような講演会でした。



主 催	就実大学教育心理学会・キャリア委員		
行 事 名	キャリア・就心会共催講演会		
講 師	アビスパ福岡株式会社育成普及部 スクールチーフ／コーチ ブラインドサッカー女子日本代表ガイド 藤井 潤 氏		
日 時	平成29年7月8日	場 所	B106
対 象 者	教育心理学科学生・大学院 生・教職員	参加人数	70名

概要

文部科学省では、スポーツ基本法に基づき、平成24年3月にスポーツ基本計画を策定し、「年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備すること」を基本的な政策課題として、障害者スポーツの推進を図っている。このような中、2020年からの新たな特別支援教育（学習指導要領改定）を契機に、全国の特別支援学校で、スポーツのみならず文化・教育活動も含めた取組みが推進される。例えば特別支援学校を拠点とした総合型地域スポーツクラブの創設等、「地域社会のハブ（交流拠点）」化、特別支援学校と近隣の小中高等学校の児童生徒の交流及び共同学習の促進やその成果の発表大会等が企画されている。

学校関係職をはじめ心に寄り添う事のできる人材育成を目指す本学科の学生においては、このような場面（地域の共生化）に接する機会や主体となっていく可能性がある。しかしながら、障がい者スポーツに接する機会は多くないこともあり、今回の演会は、障がい者との関わり、かつ指導者として活躍する現場の声を聴講し、障がい者への理解を深める機会とするためテーマを取り上げた。

講師には、サッカー・ブラインドサッカーの指導の第一人者で、元日本代表ブラインドサッカーガイドで現日本代表女子ブラインドサッカーガイドとして活躍するアビスパ福岡株式会社 育成普及部 所属の藤井潤先生をお招きし、「障がい者への理解を深める」ことをテーマとした講話をして頂いた。

講演会では、藤井先生の障がい者スポーツや障がいを有する方と関わるようになったきっかけ、これまでのスポーツや障がい者への指導・支援 や豊富な国際経験をもとに学んだことを踏まえ、世界と日本の差や障がい者への関わり方、接し方、人や物事の視方についてわかりやすく解説して頂いた。

また、「視えない環境」での遊び体験を交えながらアクティブラーニング形式で展開していただき、自他や障害をもつ方々への支援や理解する心を深めることについて、楽しく学ぶことができ大変有意義な講演会となった。



主 催	就実大学教育実践センター		
行 事 名	就実大学教育実践セミナー		
講 師	寺尾 正先生（大阪教育大学特任教授）		
日 時	平成29年10月25日	場 所	就実大学S館102
対 象 者	就実大学・就実短期大学学生	参加人数	約200名

概要

大阪教育大学特任教授の寺尾正先生を招聘し、就実教育実践セミナーを開催した。
 今回のセミナーでは、子どもたちによって歌い継がれてきた「わらべうた」をモチーフに、合唱技術の基礎を体験的に学んだ。

セミナーは、まず、簡単なリズム遊びを行なった。この遊びは、四分音符と八分音符だけで作られたリズム譜どおりに手拍子をするだけの活動であるが、会場を2つに分け、一方はリズム譜の左から、もう一方は、右から手拍子をすると、会場全体に「楽しいリズム」が広がった。最初は、緊張していた学生も、一気に、音楽の楽しさに入ることができた。



ウォーミングアップの後、4名の大阪教育大学の大学院生の披露した「だるまさん」をお手本に、歌詞を会場の先生の名前に変えて、輪唱を行なった。

今回のセミナーは、「ひらいたひらいた」「かごめかごめ」「ほたるこい」「さくらさくら」などのわらべ歌を参加者全員での合唱を体験することができた。



主	催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行	事	名	第1回就実大学薬学部地域連携教育講座 「地域医療に真に貢献する新しい薬剤師医療人教育を考える」	
講	師	鈴木 匡 先生（名古屋市立大学臨床薬学教育研究センター教授）		
日	時	平成29年5月28日	場	所 本学S102教室
対	象	者	参加人数	110名
		薬剤師、卒業生、在学生、一般		

概要

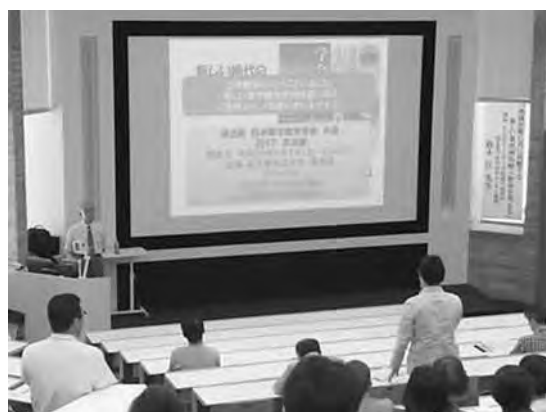
本研修会では、名古屋市立大学教授の鈴木 匡先生より、「地域医療に真に貢献する新しい薬剤師医療人教育を考える」という題目で、9：30から12：30まで講演が行われた。

鈴木先生の薬局薬剤師としてのご経験を踏まえて、薬局の歴史的変遷の中での医薬分業の成立、「将来、薬剤師は過剰となりますか？不足しますか？」との発問に対して「薬剤師が自ら仕事をつくるべきだ。そうすれば薬剤師が過剰の時代なんてありえない」等、現場薬剤師や今後を担う薬学生へのメッセージから講演が始まった。

約3時間の講演内容として、前半は、地域の薬局における薬剤師のあり方に関して、処方せん通りの正確な調剤は最低限であり、患者さんよりプラスαの診療報酬を頂いた上でも認めてもらえる薬剤師の仕事について、検体測定室を備えた薬局におけるセルフメディケーションや健康サポート機能、在宅での残薬管理、等について具体例を含めながらお話された。

後半は、10年後20年後に求められる薬剤師業務を実践するために、名古屋市立大学での取り組みを例として、新カリキュラムに沿った薬学教育に関するお話がなされた。特に強調された内容として、薬剤師が患者の薬物療法を主体的に処方設計し、提案し、そして有効性と安全性を評価できるようになるために、5年次の実務実習の段階から、見学では無く、患者と接するような臨床業務を体験させて、医療者としてのプライドと責任感を醸成し、答えのない問題に対して継続的に関わるための知識と態度を涵養する教育と2年後に控えた新しい実務実習の準備の必要性が訴えられた。

講演終了後に在学生から「医療者としての心構えはどのように教育するのか」等の質問があり、現場の薬剤師、学生、および大学教員が揃って、新しい薬剤師教育について考える機会となった。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第2回就実大学薬学部地域連携教育講座 「改めて考える医薬品安全～ハイリスク薬の再評価と安全な投薬プロセスの見直し・徹底～」		
講 師	赤木 晋介 先生（倉敷中央病院 HQM推進室 患者安全対策リスクグループ 薬剤部 薬品情報室）		
日 時	平成29年6月25日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、一般	参加人数	121名

概要

本研修会では、倉敷中央病院 HQM推進室 患者安全対策リスクグループ 薬剤部 薬品情報室の赤木 晋介先生より、「改めて考える医薬品安全～ハイリスク薬の再評価と安全な投薬プロセスの見直し・徹底～」として2部構成で、9：30から12：30まで講演が行われた。

まず「医療における安全管理の変遷と現状」として過去の医療事故の事例や倉敷中央病院でのワーファリンとフロリドゲルの相互作用事例等の話があった。また驚愕の事例として、外観や名称が類似していることによる事故が紹介され、性善説に則った管理では事故はなくなると説明があった。次に「医薬品の安全管理の具体例」として、ハイリスク薬の管理について倉敷中央病院での取り組みについての説明があった。投薬プロセスの見直しや、医薬品の採用段階から取り扱い時のリスクも評価することのことである。また医薬品の不適正使用について、医薬品副作用被害救済制度の対象とならない事例が20%に上るとの説明があり、持参薬管理も含めさらなる医薬品管理体制が必要である。倉敷中央病院では、年度方針として、IPSG（Internathional Patient Safety Goal）の遵守、チーム医療の推進等が挙げられている。具体的な取り組みとして、セーフティマネジメント研修会が行われている。ヒューマンエラー対策としてKYT、危険（Kiken）、予知（Yochi）、訓練（Training）の取り組み、SBAR（Situation, Background, Assessment, Recommendation）についてビデオを取り混ぜながら解説がなされた。

講演終了後の質疑応答では、熱心な聴講者からいくつも質問が寄せられ、倉敷中央病院での対策や実際の経験に基づいた解説があった。医療安全における薬剤師の役割は大変大きなものであり、今後の臨床現場で大変参考になる研修会であったと思われる。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第3回就実大学薬学部地域連携教育講座 「看護職から地域の薬剤師に望むこと」		
講 師	佐藤 真理子 先生（岡山済生会総合病院 慢性疾患看護専門看護師） 江田 純子 先生（岡山県看護協会 地域包括ケア推進室長）		
日 時	平成29年7月30日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参加人数	70名

概要

本研修会では、岡山済生会総合病院 慢性疾患看護専門看護師の佐藤 真理子 先生と岡山県看護協会 地域包括ケア推進室長 江田 純子 先生より、「看護職から地域の薬剤師に望むこと」という題目で、9：30から12：30まで講演が行われた。

第一部では、佐藤先生より「糖尿病看護外来に携わる病院看護師からの視点」と題して糖尿病の治療において専門看護師としてどのように介入していくのかについてご説明いただいた。全体を通して、薬物治療におけるアドヒアランスを向上させるためには、病気の体験を聴くケアが重要であることを、事例をもとに解説いただいた。この聴くケアを実践することで、患者の体験を理解することができ、結果として薬物治療をコンプライアンスの概念で評価してしまいがちな医療者が、アドヒアランスの観点から治療に介入する手がかりとなると考えられる。また、治療への介入にはチームアプローチが重要であり、病院内のチームのみならず地域のチームとの連携が重要になることが説明された。

第二部では、江田先生より「地域包括ケアに携わる訪問看護師からの視点」と題して訪問看護の観点から薬剤師が関与していくべき内容についてご説明いただいた。在宅医療における薬剤師の役割として、処方に基づく調剤・疑義照会・薬剤情報提供・医師の指示による薬剤管理指導が挙げられ、薬剤師が協働した事例についてご紹介いただいた。事例での解説内容より、薬剤師が求められている部分として、特殊な新規の内容というよりも、本来業務である調剤や疑義照会を含む薬剤管理が最も重要であることが感じられた。

講演終了後に「他職種との連携について現状どのような問題があるか」等の質問があり、それぞれの業務から得られた情報について他職種と情報共有することの重要性をお示しいただいた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第4回就実大学薬学部地域連携教育講座 「医薬品が引き起こす健康被害と繰り返される教訓」イレッサによる被害はこうして発生・拡大した		
講 師	近澤昭雄 先生（元薬害イレッサ訴訟原告団団長 イレッサ薬害被害者の会代表 全国薬害被害者団体連絡協議会世話人）		
日 時	平成29年9月24日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、一般	参加人数	64名

概要

本研修会では、元薬害イレッサ訴訟原告団団長、イレッサ薬害被害者の会代表、全国薬害被害者団体連絡協議会世話人の近澤昭雄先生より、「医薬品が引き起こす健康被害と繰り返される教訓」～イレッサによる被害はこうして発生・拡大した～という題目で、9：30から12：30まで講演が行われた。

近澤昭雄先生は、2002年に夢の新薬として承認されたイレッサの副作用によりご家族を亡くされており、それ以来10年以上に渡り行政を相手に戦ってこられた。

本来イレッサのような抗がん薬を使用する目的は、「患者が少しでも長く生き続けること」であり、やむを得ず「仕方のない犠牲」を患者に求めるときは、危険情報とその説明が不可欠であるということを強調されていた。このイレッサによる被害が抗がん薬だから特別である、ということではなく一般の新薬と同等に捉え、それがたとえ抗がん薬であっても、新薬のリスクを知らされず多くの患者が亡くなられたこの被害を、今後の治療に活かしてほしいと締めくくられた。この言葉は薬剤師、そして教育に携わる薬学部教員にとっても非常に重い言葉であると感じた。公開講座全体として、スタッフの対応もスムーズに行われ、問題なく遂行することができた。



主 催	薬学部 薬学科（薬学部公開講座委員会）		
行 事 名	第5回就実大学薬学部地域連携教育講座 「精神機能、特に情動（快・不快）に影響する薬（基礎と臨床）～向精神薬の臨床での主作用と気になる副作用～」		
講 師	五味田 裕 先生（岡山大学 名誉教授）		
日 時	平成29年10月29日	場 所	本学S102教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参加人数	116名

概要

本研修会では、岡山大学の五味田裕先生より、「精神機能、特に情動（快・不快）に影響する薬（基礎と臨床）～向精神薬の臨床での主作用と気になる副作用～」という題目で、9：30から12：30まで講演が行われた。

約3時間の講演内容として、まず初めに、情動「快・不快」の脳内発現機構と情動異常について、精神疾患を例にとった病態及び脳内での「快・不快」系発現機構の詳細な解説をお話しして下さった。続いて、精神系疾患の薬物治療と副作用という話題で、様々な薬物（睡眠導入薬・抗不安薬、統合失調症治療薬、躁・うつ病治療薬、など）の作用機序とその効果について、動物実験を含めた基礎学術的な知見から最新の臨床応用に関する知見までを詳細に説明された。

講演後半では、精神機能関係領域での最近の話題として、「情動の神経細胞への影響」、「抗がん薬の精神機能変化とその対応」、「経口抗がん剤院外処方せんの双方向性の情報共有」について岡山大学、吉備国際大学、就実大学、愛媛大学における最新の知見をわかりやすくお話しされるとともに、日病薬における精神科領域の専門薬剤師・認定薬剤師制度に関してご紹介された。精神科領域の薬物治療は、特に患者個人個人に合わせた用量設定が必要であり、その基礎知識を薬剤師が持っておくことは、治療の上でも、副作用発現に関しても、とても重要だということが良くわかる講演であった。

不眠や不安など、現在の社会問題を反映する話題に関する講演であり、講演終了後の質疑応答でも参加者から積極的な質疑があるとともに、根拠を持って患者にアドバイスができるといった意見がでるなど、薬剤師の関心の高さがうかがえた。



主 催	経営学部		
行 事 名	グローバル・フォーラム2017「グローバル化の新局面とわが国の対応」		
講 師	ビル・エモット氏、小野誠英氏、田口雅弘氏		
日 時	平成29年7月8日	場 所	110周年記念ホール (S102)
対 象 者	学生、企業経営者、一般	参加人数	約150名

概要

英国の欧州連合からの離脱を決めた国民投票の結果を受け、欧州だけでなく世界経済への影響が懸念されている中、本年7月8日（土）13：00～17：00に就実大学110周年記念ホールにおいて、本学客員教授で元英国エコノミスト誌編集長のビル・エモット氏に加え、株式会社三菱総合研究所の常勤顧問小野誠英氏及び、岡山大学経済学部教授で西洋経済学を教えておられる田口雅弘氏をお招きし、「グローバル化の新局面とわが国の対応」と題して、グローバル・フォーラム2017を開催した。

ビル・エモット氏は、「グローバリズムの危機～一つの楽観的観点から」と題して、グローバリゼーションと反グローバリゼーションの相克とそれを克服する国民意識の改革の重要性を強調された。小野氏は豊富な米国での実務経験から、「米国トランプ政権の課題とグローバル社会を変えるイノベーション」と題して、AIやIoTの発展が、国際関係を変革していく可能性について論じられた。田口氏は「欧州に見るグローバル化が生んだ反グローバル化の潮流」と題して、欧州における反グローバル化の動向とその背景について見解を述べられた。

参加者は学生、一般人など約150名を数え、締めくくりの質疑でも活発な質疑応答がなされた。



主	催	経営学部		
行	事	名	就実サマービジネスキャンプ2017	
講	師	ビル・エモット氏、小野誠英氏、田口雅弘氏		
日	時	平成29年 8/5～8/12	場	所 就実大学
対	象	者 海外提携校の学生	参加人数	13名

概要

平成29年8月5日（土）～平成29年8月12日（土）の8日間、5ヶ国・6大学・13名の留学生を迎え、就実大学S513教室を主会場に、講義・ワークショップ・観光視察・産業視察を含む経営学教育プログラム「就実サマービジネスキャンプ2017」を実施した。岡山市内では岡山城、後樂園の見物、うらじゃ踊り体験や花火の見物を行った。台風5号の影響により、8月7日（月）～8月8日（火）の経営学部学生と合同の「イングリッシュキャンプ」は開催予定地（前島カリヨンハウス）の使用が出来なくなったため、急遽同内容のプログラムを就実大学S館内で実施することとなったが、混乱はなかった。産業視察は、ジーンズビジネスについてレクチャーを受けた後、児島のジーンズメーカーを視察した。最後に、地域産業についてのレクチャー、ワーク・ショップとプレゼンテーションを行った。

学外で行った歓迎ランチ会や最終日の自由行動の同行等、学生同士のカジュアルな交流の場を設けたことで、就実生と留学生の距離が縮まった。

参加学生への事後アンケートによるプログラムの評価は高かった。

（参加大学）カナダ・ロイヤルローズ大学、韓国・祥明大学、公州大学、釜慶大学、タイ・カセサート大学



主 催	経営学部		
行 事 名	特別講演「美術・音楽・建築による文化都市づくり」		
講 師	ゲーザ・フォン・ハプスブルク大公、岡崎ゆみ子氏、迫慶一郎氏		
日 時	平成30年3月3日（土）	場 所	110周年記念ホール
対 象 者	学生、一般	参加人数	目標：200名
概要			
<p>経営学部は創設以来、グローバルな視野を持ちつつ日本の文化資産を有効に地域振興に活かすことのできる情操豊かな人材の創出に資することを目的として、文化・芸術を通じた地域振興・人づくりに積極的かつ実績のある著名人をお招きして、講演会・座談会を開催してきた。</p> <p>本年度はゲーザ・フォン・ハプスブルク大公・本学客員教授を招聘するのにあわせて講演会・座談会を開催する。出演者はハプスブルク大公のほか、ピアニストの岡崎ゆみ子氏、建築家の迫慶一郎氏。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 2018年3月3日（土） ・時 間 13：00～16：55 ・プログラム <ul style="list-style-type: none"> ・開会の辞 杉山 慎策副学長 ・講演1 ハプスブルク大公（文化の果たす町づくり） ・講演2 岡崎ゆみ子氏（音楽の果たす町づくり） ・講演3 迫慶一郎氏（建築の果たす町づくり） ・座談会 芸術・音楽・建築による文化都市づくり 			

主	催	幼児教育学科		
行	事	就実やんちゃキッズ（地域子育て支援の取り組み）		
講	師	幼児教育学科1・2年生（GBA 中四国保育学生研究大会参加メンバー）		
日	時	平成29年5月～平成30年1月	場 所	本学体育館アリーナ
対	象	就学前の子どもと保護者	参加人数	1466名（保護者656名、子ども810名）

概要

幼児教育学科では、学生ボランティアグループGBAと、中四国保育学生研究大会参加学生による地域子育て支援活動『就実やんちゃキッズ』を開催している。平成29年度は、『からだをうごかそう 1・2・3！』をテーマとし活動を行った。

定期的を開催することで地域の子育て支援体制を構築し、地域の子育て世帯が子どもといっしょに安心して過ごすことのできる場を提供している。学生たちにとっては、他者との協働を学ぶ場であり、授業での学修を試す場であり、保育・幼児教育に関する専門的な知識や技術、コミュニケーション能力、社会貢献への意欲のなどを磨く機会となっている。

「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」の実施概要（平成29年5月～30年1月）

本学体育館アリーナを会場とし、5月27日、7月1日、11月25日、1月20日の計4回開催した。開場が9時30分、開演は10時で11時30分までの90分間である。プログラムの前半部では、学生が地域の就学前の子どもを対象に公演を行った。学生たちは「表現」等の授業で学んだことを活かしながら、パネルシアター・リズム体操・オペレッタを披露し、幕間には手遊びを行った。後半部では子どもたちや保護者と遊びを主とした交流を行う。お絵かきコーナーや、新聞シャワーコーナー、ダンボールハウスコーナー、伝承遊びコーナー、身長・体重測定コーナーなど、幅広い子育て世帯が楽しめるよう多くのコーナーを設置した。

昨年と同様に、授乳室、おむつ替えスペースなども充実させ、来場者が快適に過ごすように配慮している。毎回300名前後の来場者が訪れ、和やかな交流の場を持つことができた。



主 催	幼児教育学科		
行 事 名	潜在保育士復職支援及び卒後リカレント教育研修会		
講 師	幼児教育学科全教員		
日 時	平成28年 8月26日～ 平成28年 9月16日	場 所	本学・就実こども園
対 象 者	岡山県内在住潜在保育士及 び現職保育者	参加人数	延べ61名

概要（本文・写真・図等）

幼児教育学科では、平成26年に潜在保育士の復職支援プロジェクトを立ち上げて4年目になります。昨年度に引き続き、今年も潜在保育士だけではなく、現職保育者を対象とした卒後リカレント教育の場を兼ねて研修を実施しました。今年度は岡山県の後援を得て、配布の際にも広報の協力をいただきました。

以下の日程で、岡山県下の潜在保育士及び現職保育者を対象に、5講座の研修と情報交換会を実施しました。情報交換会には、岡山市の担当者を招き、復職支援の取り組みに加え、求人情報や勤務内容等、具体的に伺いました。また、昨年受講生の中から復職に成功された方を招き、研修を受けるきっかけや研修後の心境の変化、就職までの経緯を報告していただきました。受講生から再就職にあたっての心配事や疑問についての質問に対して、解決に向けてのアドバイスをいただきました。続いて、就実こども園において保育士の日常業務を体験しました。この実地研修では、保育の環境における基本を学ぶと同時に、クラス担任から直接個別の対応についての解説も窺いました。

受講の感想としては、「保育をするにあたり自分がどう子どもたち（または保護者）と向き合うべきなのか、どういう姿勢が望ましいのかを改めて知ることができ、身の引き締まる思いがしました」、「実際働かれた方のお話を聞いたのはとても良かったです。保育士支援の方の熱さも伝わって、自分の次に向けての気持ちの面で背中を押してもらった気がします」という意見が寄せられました。

日 程	内容（午前10時～12時）	講 師	内容（午後13時～15時）	講 師
8月26日	①声楽	Z.山田	②教育相談	荊木
9月2日	③保育者論	笹倉	④環境	伊藤
9月9日	⑤図画工作	柴川	情報交換会	
9月12・16日	就実こども園での体験実習（9：00～16：00）			



①教育相談



②情報交換会



③就実こども園での体験実習

主 催	就実教育実践研究センター (就実子育てアカデミー実行委員会)		
行 事 名	親子ふれあいタイム		
講 師	専任保育スタッフ 大学・短大教員 学生ボランティア等		
日 時	平成29年5月9日開始	場 所	就実こども園
対 象 者	0歳～5歳児の親子	参加人数	毎回約30名程度
概要			
<p>1 実施日：平成29年5月9日から毎週火曜日と木曜日、週2回（10：00～12：00）</p> <p>2 内 容：0歳から5歳までの乳幼児を持つ親子を定期的に受け入れ、就実こども園2階の子育て支援室で行った。火曜日はサークル活動としてクラスを決め、年間で計画した活動を楽しみ、木曜日はプログラムのない自由な形態で親子交流を実施した。また子育て講座として、身近な子育てに関する催し等を開催してきた。</p> <p>また、子育てに関する情報発信として「親子ふれあいタイム通信」等を継続して発行。子育て支援携帯電話ポータルサイト（http://shujitsu-kosodate.jp/）の運営も行った。</p> <p>3 成果等：就実教育実践研究センターが地域のNPO、学校、保育所、町内会、企業、行政と協働して運営している「就実子育てアカデミー」の事業の一環として、本年度も親子ふれあいタイム事業を継続した。情報は広く知れ渡り、岡山市はもとより市外からの参加者もあるので、安心・安全の観点から予約制を導入している。</p> <p>就実こども園の施設を利用し、ゆったりと遊べる空間で、親と子どもがふれあう時間を提供できることは、他の親子と知り合う場となり、子育てについて意見交換したり友達を見つかったり親の願いにもかなうものとなり子育てを楽しむ輪が広がると考える。本学の学生も、子どもとその保護者にかかわる機会に恵まれ、直接体験を通して子ども理解を深めている。本事業を通して、異年齢児との交流を行う場、親同士の交流の場、親の子育て不安を相談できる場、親の学び場等を構築することができた。</p> <p>なお、本事業は岡山県備前県民局平成29年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金採択事業である。</p>			

主 催	就実教育実践研究センター		
行 事 名	就実教育実践研究セミナー「合唱の基礎をわらべうたから学ぶ」		
講 師	寺尾 正 氏（大阪教育大学特任教授）		
日 時	平成29年10月25日	場 所	S102教室
対 象 者	学生・教職員・一般	参加人数	約200名

概要

平成29年10月25日（水）大阪教育大学特任教授の寺尾正先生をお招きし、就実教育実践セミナーを開催した。

セミナーは、まず、簡単なりズム遊びからスタートした。四分音符と八分音符だけで作られたリズム譜どおりに手拍子をするだけだが、会場を2つに分け、一方はリズム譜の左から、もう一方は、右から手拍子をする、会場に「楽しいリズム」が広がった。最初は、緊張していた学生も、一気に、音楽の楽しさに入ることができた。

ウォーミングアップの後、4名の大阪教育大学の大学院生さんが、「だるまさん」をお手本に披露してくださった。歌詞を会場の先生の名前に変えて、輪唱すると、会場の雰囲気は一気に和やかになった。

「ひらいたひらいた」「かごめかごめ」「ほたるこい」「さくらさくら」などのわらべ歌を題材に、輪唱のタイミングを変化させるだけでも美しい響きが生まれることを体験的に学び、子どもたちへの指導へとつながる学びを得る機会となった。



主	催	就実大学・就実短期大学 図書館		
行	事	第7回図書館セミナー「図書館の基礎を作った江戸中後期文壇——江戸文壇と和学考証学」		
講	師	就実大学人文科学部教授 井上啓治先生		
日	時	平成29年10月28日	場 所	本学図書館5階AVホール
対	象	一般	参加人数	62名
概要				
<p>第8回図書館セミナー「図書館の基礎を作った江戸中後期文壇——江戸文壇と和学考証学」を開催しました。今年は講師として、本学人文科学部教授である井上啓治先生をお招きしました。江戸文壇に関する雑学的な話を交えながらの講演は大変面白く、参加者の方々も大変熱心に聴講されました。当日は、あいにくの雨にもかかわらず、熱心な参加者の方々に恵まれました。</p> <p>井上先生は、まず山東京伝の「考証学」について話されました。それは日本人の芸能演劇や民俗信仰等を、たくさんの証拠（文献や絵画資料等）を挙げて、その起源と盛衰などを探求するもので、〈実証主義〉という現代世界の学術研究の方法を用いて証明してゆくものであることを示されました。つまり京伝は200年前に、一人で今日の民俗学／芸能文化史学・演劇学などの学会を作り、学術研究の成果を積み上げていったこととなります。そして「俗文壇」の頭領であった京伝が、どのような挫折の人生と作家生活を経て、考証学を切り拓いていったのか、また儒学とともに漢詩文と和歌を学び、和・漢の正統なる「学・芸」を深く修めた「雅文壇」の主導者にして「天明狂歌運動」をリードした大田南畝が、いかに京伝とその世界に関わっていったのか、お話しいただきました。狂歌は「雅」の和歌と「ずらし、逸らした」ものです。雅の「文人」にしかできぬ遊び、「戯作」です。つまり「俗」でもあります。そんな「俗」に深く関わる彼らが、「俗」とは対照的な「雅」の考証学に夢中になるのは意外なことに感じるかもしれません。しかし、実は「俗」の文化は「雅」の文化が基礎になってできていました。一見対照的な「雅俗」の密接な関係性を明らかにし、両方を修めた文人作家として京伝と南畝のより深い魅力を教えていただきました。その後、近世江戸期までの国書をまとめた『群書類従』を編纂した塙保己一について、この時代に「本を収集・整理した本」を出版する人物が出てきた背景についてお話しをいただきました。保己一もまた、南畝（京伝）の「雅文壇」周辺の人でした。</p> <p>このような、江戸文化の新しい発見が盛りだくさんのお話で、その後の質疑応答は、参加者の方から多くの質問や感想が寄せられ盛況でした。</p> <p>講演後は、井上ゼミの学生でもあり、図書館サポーターでもある学生による発表を行いました。ゼミの日常の様子や、井上先生の学生思いの人柄が伺える発表でした。</p> <p>その後、図書館サポーターの案内で、参加者の方々には図書館を見学していただきました。図書館セミナー開催にあたり特別展示を企画し、学生には、「山東京伝」「大田南畝」の著書を紹介するPOPをたくさん作ってもらい、POPと合わせて、両者の著作年表も作成し、彼らがどんな作家だったのか一目で分かる展示となりました。素晴らしいご講演はもちろん、学生にも多大な協力をしてもらい、大変有意義な図書館セミナーでした。次回の図書館セミナーも、学生たちとともに、地域の皆さんの期待に応えられるよう企画していきたいと思っております。</p>				

出 前 授 業

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	絵巻物を見る、きく、ふれる		
講 師	川崎 剛志		
日 付	平成29年9月1日	場 所	岡山県立岡山城東高等学校
対 象 者	高校2年生	参加人数	22名
<p>(概 要)「文学探求」講座中の一回。書「物」が表現を制約し、同時に表現の可能性を広げること、絵巻「物」にふれながら学んだ。『信貴山縁起絵巻』の複製を開くたびに、ただの紙面から時間が、物語が動き出し、奇跡が現れるのを体感した。</p>			

所 属 (学部・学科)	人文科学部 表現文化学科		
タ イ ト ル	絵巻物を見る、きく、ふれる - 『伴大納言絵詞』を開く -		
講 師	川崎 剛志		
日 付	平成29年10月3日	場 所	岡山県立倉敷南高等学校
対 象 者	高校1・2年生	参加人数	45名
<p>(概 要)「学問の哲人講座」中の一講座。書「物」が表現を制約し、同時に表現の可能性を広げること、『伴大納言絵詞』の複製にふれながら学んだ。人々が火事に群がるさま、暴露話が噂として拡散するさまなど、卷子本という書物の不均衡さを逆手に取った珠玉の絵画表現を楽しんだ。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	ストレスと健康と幸福 - 生きることと仕事は苦勞がいっぱいですが、幸福を探します -		
講 師	高木 亮		
日 付	平成29年12月14日	場 所	備前市立片上高等学校
対 象 者	高校生および高校教職員	参加人数	53名 (高校教職員込)
<p>(概 要) 21世紀になっての人口動態・人口減少の見通しと寿命・自立寿命などを概観して、これからの時代の「生きる」は「心身が自立している限りは働くこと」で「そこに幸福を感じる心理・気持ちのコントロールが重要になる」という主旨で高校生を主対象とした授業を行った。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	教職課程・教育学部について		
講 師	飯田 智行		
日 付	平成29年 6 月16日	場 所	岡山県立和気閑谷高等学校
対 象 者	2・3年生	参加人数	25名
<p>(概 要) 教育分野の社会貢献、教育分野の今後の課題について現状を紹介しました。その後、教員免許取得までのみちのりや教育学部での授業紹介、教員採用試験の説明などを行いました。「人を育てる」教育分野の重要性を少しでも理解して頂ければ幸いです。</p>			

所 属 (学部・学科)	初等教育学科		
タ イ ト ル	魅力的な保育者ってどんな保育者だろう？		
講 師	蘆田 智絵		
日 付	平成29年11月15日	場 所	神辺旭高校
対 象 者	1年生	参加人数	21名
<p>(概 要) 幼稚園や保育園、認定こども園で、保育者がしている「保育」という仕事について、写真やエピソードをもとに、話し合いをしました。それらを通して、子どもの主体的な発達を促す保育者のかかわりや子ども理解について、また、魅力的な保育者や子どもにとって嬉しい保育者について考えました。</p>			

所 属 (学部・学科)	教育学部 教育心理学科		
タ イ ト ル	身体が表す心について		
講 師	桑原 和美		
日 付	平成29年 7 月 3 日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	高校1・2年生	参加人数	30名
<p>(概 要) 意図しない私たちの動作や行動、あるいは様々な身体の状態の背景にある“心”について、(1)「癖」や「しぐさ」、(2) 身体・動作・心が一体となった慣用的な言葉「身体言語」、そして (3) 身体に表れる現代社会の問題、この3点に話題を絞って授業を行ないました。</p>			

所 属 (学部・学科)	薬学部 薬学科		
タ イ ト ル	「やさしい遺伝子診断と遺伝子治療」		
講 師	中西 徹		
日 付	平成29年7月3日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	高校2年生	参加人数	25名
<p>(概 要) 近年発展している新しい医療も含め、オーダーメイド医療や癌の遺伝子検査等の遺伝子医療全般について解説しました。新聞等で紹介されている技術でもあり皆さん熱心に聴講されていました。ご協力くださった受講生と先生方に感謝申し上げます。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	マーケティング・リサーチ入門—市場分析を事例として		
講 師	野本 明成		
日 付	平成29年7月18日	場 所	岡山龍谷高等学校
対 象 者	普通科2年	参加人数	43名
<p>(概 要) マーケティング・リサーチについて様々な事例を挙げながら説明を行った。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	マーケティング・リサーチ入門—市場分析を事例として		
講 師	野本 明成		
日 付	平成29年8月22日	場 所	岡山県立岡山東商業高校
対 象 者	2年	参加人数	20名
<p>(概 要) マーケティング・リサーチについて様々な事例を挙げながら説明を行った。</p>			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	経営学部における論文作成について		
講 師	野本 明成		
日 付	平成29年12月13日	場 所	香川県立高松桜井高等学校
対 象 者	2年	参加人数	26名
(概 要) 経営学部における論文作成の方法について説明を行った。			

所 属 (学部・学科)	経営学部 経営学科		
タ イ ト ル	地域の魅力を伝えるマーケティング		
講 師	加賀美 太記		
日 付	平成29年7月3日	場 所	盈進高等学校
対 象 者	1年生	参加人数	30名
(概 要) 地域とマーケティングというテーマのもと、ゆるキャラやB-1グランプリといった具体例を紹介するとともに、なぜ地域に注目が集まるのか、そこで求められる取り組みについて経営学や社会学の視角から解説をおこなった。			

学外組織との連携・協働

主 催	人文科学部		
タ イ ト ル	倉敷考古館との連携事業		
実 施 者	土井通弘・中西裕・浅利尚民（以上表現文化学科）・武部好子・王祖茜（以上実践英語学科）・松崎博子（総合歴史学科）		
日 付	平成29年度	場 所	
対 象 者	倉敷考古館	参加人数	名
概要（本文・写真・図等）			
<p>本学人文科学部と公益財団法人倉敷考古館（香川俊樹館長）との連携協定に基づき、昨年度にスタートした同館所蔵安養寺経塚出土品（瓦経）の再調査を継続し、展示解説の多言語対応に取り組むとともに、同館収蔵品データベースの整備と公開の準備、展示の情報化のプランニング、館蔵図書整理の準備等をおこなった。</p> <p>瓦経は出土以来、約50年が経過しており、保存状況が厳しい状況にあったため、劣化が著しいことから、土井教授・浅利准教授が博物館学芸員課程の学生を指導して台紙・包紙等で養生するなどの作業をおこなった。参加学生数はのべ約112名であった。また、状態のいい瓦経については特殊カメラによる撮影を行い、高精細デジタル映像を作成した。</p> <p>収蔵品データベースの整備と展示の情報化については中西教授が担当した。文化庁の「文化遺産オンライン」のシステムを活用して、優品、常設展示品といった順序で段階的に整備すべく、本年度はデータの収集等の準備をおこなった。展示の情報化については瓦経の高精細デジタル映像のデータを用いて効果的な展示を行うべく計画した。この展示は平成30年度に実施する予定である。</p> <p>解説の多言語化のうち英訳については、館より依頼された展示解説文について、実践英語学科武部准教授の指導のもと後期授業「翻訳演習2」の課題として、実践英語学科26名の受講生が協力しながら日本語から英語への翻訳を進めている。大学で行う自分達の翻訳が実社会で展示される可能性がある点は、受講生の学習意欲や地域貢献意欲を高めている。</p> <p>中国語訳については、実践英語学科王祖茜講師の指導のもと、中国語中級の履修者（15名）や課外活動グループ「中国語勉強会」の6名の学生が取り込んでいる。</p> <p>英語・中国語ともに担当教員が翻訳文の添削を行い、訳文を完成させる予定である。</p> <p>館蔵図書の整理に関しては、松崎准教授の指導のもと図書館司書科目「情報資源組織論」の課題として、受講生85名が整理の進め方を検討した。</p>			

主 催	就実学園 就実・森の学校、岡山市、(公財)岡山市公園協会		
タ イ ト ル	青空観察会ー里山で青空の秘密をさがせ！ー		
実 施 者	渡辺 雅彦 (就実大学教授・日本気象予報士会岡山支部長)、他		
日 付	平成30年1月28日	場 所	就実・森の学校及び操山公園里山センター
対 象 者	小学生、中学生	参加人数	小中学生22名+保護者等

概要 (本文・写真・図等)

1月28日の日曜日に、就実・森の学校及び里山センターで青空観察会が開かれました。

最初に全員森の学校の野外テントに集まり、予報士会岡山支部の担当で観察会は始まりしました。渡辺は前半に「なぜ天気は変わるのか」などについてスライドを使って説明しました。後半は支部会員の岡部さん、森谷さんがペットボトルで雲を作ってみせた後、実際に子どもたちにも作らせました。次に十種雲形を説明したのち、みんなで実際に空を見上げて雲を観察しました。雪が降っていましたが、それでも空は一様ではなく、いくつかの雲を見ることができました。

その後は森の学校、岡山市及び公園協会の各ご担当に加え、岡山HFK会の皆様のご協力による午前中のドローン高度目測クイズ、昼食をはさんだ午後は参加者の半数が里山センターに移動して、それぞれの場所で、鉄塔の高さを地図上の距離と角度から求め、最後は全員里山センターに集まって解散となりました。天候不良のため、残念ながらヘリコプターの高さを測定することは中止になりました。

屋外での講座で、雪も舞っていましたが、季節を直接感じる事ができ、印象に残るものでした。空や天気に興味をもってくれる子供たちが増えていくことを期待しています。

青空観察会
 キミも里山っ子！
 あたらしい友だちと
 自然遊びの達人になろう！！

外へ出れば空の上には空があります。青空だったり、曇り空だったり。そんな、身近で深い空を観察して、気象や大気めぐりを学んでみませんか？

日時 2018年1月28日(日)
10:00～15:00 (小雨決行)

場所 就実・森の学校及び
操山公園里山センター

定員 先着35名

対象 小学生、中学生

参加費 無料

講師 渡辺 雅彦 氏
(日本気象予報士会岡山支部長、就実大学教授)

申込 1月5日(金)以降、里山センターへ
FAX・はがき・電子メールで
(参加者住所・氏名・保護者氏名・連絡先を記載)

その他 動きやすく汚れてもいい服装でお越しください

申込・お問合せ先
 操山公園里山センター
 〒703-8234 岡山市中区浜田649-2
 Tel 276-3300 Fax 276-8253
 メール: risoyama@okayama-park.or.jp

里山を中心に、
自然と親しむ活動をする取組を
精進中！

主催: 就実学園 就実・森の学校、岡山市、(公財)岡山市公園協会



主 催	おかやまCOC+推進協議会（代表：岡山県立大学）		
タ イ ト ル	「地域活性化のための地域中小企業経営者支援セミナー」		
実 施 者	岡山県立大学デザイン学部・就実大学経営学部		
日 付	平成29年10月～3月	場 所	備前商工会議所
対 象 者	企業経営者及び後継者	参加人数	10～30名

概要（本文・写真・図等）

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、備前市、備前商工会議所、備前東商工会の後援を得て実施した。

本事業は備前市内の中小企業の経営者及び後継者を対象に、岡山県立大学デザイン学部と就実大学経営学部が互いの経営資源を活用して、企業の経営力向上と地域創生に繋がる統合的地域ブランディングを目的に全6回のセミナーを実施するものである。

初日の10月27日には、セミナーの目的について杉山慎策副学長・経営学部長が話した後、株式会社ベティスミスの大島康弘社長が基調講演を行った。

講義は全6回中、3回を経営学部教員が担当した。11月17日は櫻木理江講師がケース分析のワークショップを交え、マーケティング戦略の基本について講義、12月15日は加賀美太記講師がSWOT分析など経営戦略の立て方や経営学を学ぶ意味について講義を行った。2018年1月19日には鈴木新講師が「アメーバ経営の何がすごいのか」のタイトルで講義を行った。各回、10～30名の参加者があり、和やかな雰囲気の中で熱心に聴講され、参加者からは「組織内での学習の必要性が理解できた」など高評価が得られた。

3月16日の最終日には、杉山慎策副学長・経営学部長がクロージングの講話の後、修了書の授与を行った。



主 催			
タ イ ト ル	倉敷ケーブルテレビ番組企画「Tomorrow」		
実 施 者	就実大学経営学部学生12名、企業経営者6名		
日 付	平成29年10月～3月	場 所	倉敷ケーブルテレビ
対 象 者	有線テレビ放映	参加人数	—

概要（本文・写真・図等）

倉敷の若手経営者と、就実大学経営学部の3年生とで、キャリアについての話を中心に本音でトークをする番組企画「Tomorrow」に就実大学経営学部学生12名が出演した。

倉敷ケーブルテレビコミュニティチャンネルにて、2017年10月～2017年3月まで、月替わりで6回収録分を放送。平日の8:30～9:00、週末の13:00～13:30、20:30～21:00に繰り返し放送された。出演企業は倉敷地所、とら醤油、クラビズ、YK興産、いのうえ、倉敷看板の6社。学生は本学のみ12名。テレビ局からは「学生たちは主体的に発言し、スムーズに番組進行することができた」「倉敷・総社地域での反応は上々で、地元企業の経営者たちからも番組を見た、とてもよかったと多くの好意的なコメントが寄せられた」と謝意を表された。

番組内容

倉敷の若手経営者（メイン1名、サブ1～2名）と、就実大学経営学部の3年生（各回男女2名ずつ）とで、キャリアについての話を中心に本音でトークをする。

<番組の構成>

- ①出演者紹介
- ②メイン役社長の会社紹介VTR
- ③テーマトーク（会社VTRの感想や興味のある点について議論、「将来の自分」や「仕事に何を求める？」などについて
- ④収録を終えての感想（控室で感想を聞く）

<収録日>

- 9月12日（火）（10・11月放送分）
- 10月31日（火）（12・1月放送分）
- 1月9日（火）（2・3月放送分）



主 催	キッズタウンKYOYAMA2017実行委員会		
タ イ ト ル	キッズタウンKYOYAMA2017		
実 施 者	就実短期大学 生活実践科学科 小田奈緒美		
日 付	平成29年12月3日	場 所	岡山市立京山公民館
対 象 者	小学生	参加人数	79名

概要（本文・写真・図等）

消費者市民を育成することを目的に、若年層への消費者教育体験イベントとして「キッズタウンKYOYAMA2017」を開催し、アンケート調査によりその教育効果を検証した。

実行委員会のメンバーは、就実短期大学の小田、京山公民館館長、椋山女学園大学の東教授、中国学園大学の池田准教授、愛知教育大学の富田先生、岡山大学の流尾様、子ども造形教室講師の小田先生、就実学園の石田先生方、岡山市市民生活局生活安全課、ESD推進課、教育委員会事務局指導課、生涯学習課、ESD市民協働センター、企業ではトマト銀行様、フレスタ様等から構成し、大学、行政、企業が協働で事業を進めた。

イベントの実施にあたり、8月27日、10月22日、12月2日に、参加する子どもたちを対象とする事前説明会や子ども市長選挙、商品づくり会を実施し、それぞれ30名以上の参加があった。

事前申し込みは110名以上あり、当日は79名の子どもたちが参加した。また、子どもたちをフォローするボランティアは就実大学、就実短期大学から40名以上、明誠学院高等学校からは30名以上の参加があった。

12月3日は、10時に子ども市長による開会式が行われ、11時には大森市長から子ども市長への任命式も行われた。キッズタウンの遊び方は、まず子どもたちが市民登録をすると市民証とお祝い金の100ペアをもらうことができる。次に、まちでの遊び方についてオリエンテーションを受けたらハローワークに行き、選んだお仕事をする事ができる。仕事がない時は子ども大学で勉強をしたり、遊んだり、買い物をしたりする。働くか勉強をすると銀行でお給料をもらえ（30分で100ペア）、税務署で税金を納める（20ペア）と次の仕事ができる。残ったお金は自由に使うことができる。

まちは15時には終了し、その後振り返りとして市民総会を開き、売上人数やお店選挙の投票結果を発表するとともに、市民アピールをホームページにて公表することが決まった。

子どもたちは、税金のことや社会のしくみについて、楽しみながら学ぶことができたようであり、次年度の開催を求める声が多くみられた。



主 催	就実大学天文部、岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
タ イ ト ル	月面X観望会、中秋の名月観望会		
実 施 者	就実大学天文部（顧問：薬学部 中西 徹）、岡山県生涯学習センター・人と科学の未来館サイピア		
日 付	平成29年7月1日、8月29日、10月4日	場 所	イオンモール岡山
対 象 者	一般	参加人数	300名（総計）

概要（本文・写真・図等）

平成29年7月1日（土曜日）就実大学天文部と人と科学の未来館サイピア共同で「月面X観望会Evolution」を開催しました。今回は、イオンモール岡山5階のハレマチガーデンを会場に観望会を行いました。ハレマチガーデンに約8台の天体望遠鏡を並べて月面Xの観測を行いました。当日は、梅雨の曇天で観測は困難かと思われましたが、観測時間の日没から20時半頃には晴れ間が現れて観測は成功しました。天体望遠鏡で見るときれいに黄色に光るXが月面に現れて、ハレマチガーデンに集まった親子連れや買い物客が次々と天体望遠鏡の回りに集まって歓声をあげてガーデンは大変な人となりました。皆、望遠鏡に行列して神秘的な月面Xに見入っていました（推定参加人数約100人）。また8月29日にも同様の観望会を開催しました。



平成29年10月4日（水曜日）就実大学天文部と人と科学の未来館サイピア共同で「中秋の名月観望会」を開催しました。今回も、イオンモール岡山5階のハレマチガーデンを会場に観望会を行いました。当日は快晴に恵まれて、計6台の天体望遠鏡をイオンモール岡山5階ハレマチガーデンに設置して中秋の名月を鑑賞しました。各望遠鏡には長蛇の列ができ、天文部の約10名の学生やサイピアの職員は観望の手助けや説明に大忙しでした。150名以上の方が観望に来られ、小さな子供さんも多数来場されて一生懸命に望遠鏡を見ました。また今回、天体望遠鏡にビデオカメラを取り付けて、望遠鏡で見える月を会場のテレビに映し出したり、さらにそれをイオンモール館内のモニターでも放送するという試みも行いました。秋の澄んだ空に浮かぶ名月は大変きれいで、観望に来た方も望遠鏡をのぞいてしばし月の世界に浸っているようでした。



主 催	ビブリオバトル普及委員会		
タ イ ト ル	全国大学ビブリオバトル2017首都決戦中国Cブロック地区予選		
実 施 者	就実ビブリオバトルクラブ（顧問：経営学部 林俊克、薬学部 中西徹）		
日 付	平成29年11月11日	場 所	就実大学図書館AVホール
対 象 者	大学生、教員、一般	参加人数	27名

概要（本文・写真・図等）

地区決戦の内容は以下の通り。

①発表者（学生）数 4名

③およその当日参加者（聴衆と発表者）数 27名

④参加学校名 就実大学・就実短期大学、岡山大学、岡山県立大学、環太平洋大学、
就実大学・短期大学からは、学内の予選を勝ち抜いた薬学部の学生が代表として発表を行った。
紹介本は「人工知能の核心／羽生善治」である。

他大学の紹介本は、「桜の森の満開の下／坂口安吾」「止まりだしたら走らない／品田遊」「三省
堂国語辞典のひみつ／飯間浩明」

発表後、司会者とプレス関係者を除く参加者25名でチャンプ本を投票で選んだ結果、「桜の森の
満開の下／坂口安吾」を紹介した環太平洋大学の学生がチャンプ本獲得者（紹介者）となり、首
都決戦（全国大会）に出場した。地区決戦の様子は、翌日の山陽新聞で紹介された。



11月12日山陽新聞より

主 催	大学コンソーシアム岡山		
タ イ ト ル	下記の地域貢献活動		
実 施 者	大学コンソーシアム岡山加盟各大学ならびに岡山県・岡山市等		
日 付		場 所	
対 象 者		参加人数	
概要（本文・写真・図等）			
<p>昨年度より本学が大学コンソーシアム岡山の代表校となり、大学コンソーシアム岡山運営委員長として、地域貢献に関する活動を行った。以下に主なものを示す。それぞれの詳細は省略する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同企業説明会「就活クエスト」（2017年3月15日、岡山ドーム、大学コンソーシアム岡山・岡山県中小企業団体中央会主催） ・ 吉備創生カレッジ（通年、さん太キャンパス、山陽新聞社との連携事業） ・ 日ようび子ども大学（2017年6月4日、岡山県生涯学習センター） ・ エコナイト（2017年7月8日、奉還町商店街、各加盟大学） ・ インターンシップ事前研修会（2017年7月12日、イオンモール岡山未来ホール、岡山県・岡山県中小企業団体中央会との連携事業） ・ 障がい学生支援研修会（2017年8月24日、岡山大学、大学コンソーシアム岡山・岡山大学主催） ・ 第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2017年10月7～8日、沖縄科学技術大学院大学） ・ 岡山県合同企業説明会（2018年3月14日、ジップアリーナ岡山、岡山県中小企業団体中央会共催） 			

主 催	児童文化部		
タ イ ト ル	児童文化部活動記録		
実 施 者	児童文化部		
日 付	平成29年度	場 所	地域の児童館 図書館等
対 象 者	地域の子ども、保護者	参加人数	名

概要（本文・写真・図等）

2017年度児童文化部活動記録(2017年4月～2018年3月)		
	場所	内容
2017年4月 8日	浜川原児童館	入学式お祝い会
15日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
29日	旭川荘	旭川荘春祭り
2017年5月 5日	岡山ふれあいセンター	お祭りの手伝い
13日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
14日	北ふれあいセンター	ウォーキングの補助
27日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
27日	岡山県総合グラウンド	春の子どもまつり
2017年6月 4日	西ふれあいセンター	エコフェスタ観所
10日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
10日	旭川荘	車イスの補助
24日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2017年7月 1日	西ふれあいセンター	人形劇
9日	南ふれあいセンター	夏まつり補助
15日	とみほら児童館	お祭りの手伝い
15日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
15日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
17日	旭東児童センター	子どもとのふれあい
18日	宿毛児童館	子どもとのふれあい
27日	旭川荘	夏まつり補助
下旬	宿毛児童館	職員の手伝い
2017年8月 7日	とみほら児童館	子どもとのふれあい
19日	旭川荘	ボール遊び
24日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
27日	岡山ふれあいセンター	まつりの補助
29日	吉永キッズ	子どもとのふれあい
2017年9月 1日	中央公民館	子どもとのふれあい
9日	浜川原児童館	まつりの補助
12日	岡山福祉交流プラザ高岡	まつりの補助
14日	さくらが丘保育園	人形劇
16日	旭川荘	ボール遊び
27日	ウェルポート瀬崎	ウェルポートまつり補助
2017年10月 14日	浜川原児童館	児童館でのレクリエーション
14日	旭川荘	ボール遊び
14日	ふれあい公園	子どもとのふれあい
28日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
28日-29日	岡山ふれあいセンター	まつりの補助
29日	富山公民館	ステージ発表
29日	岡山ドーム	障害者Tボール大会補助
2017年11月 5日	岡山ドーム	まつりの補助
11日	旭川荘	まつりの補助
11日	開谷ワークセンター	まつりの補助
11日	財田児童館	ゲーム、工作補助
19日	西ふれあいセンター	ゲーム補助
25日	浜川原児童館	子どもとのふれあい
26日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2017年12月 9日	西大寺ふれあいセンター	クリスマス会での出し物
16日	幸町図書館	クリスマス会での出し物
2018年1月 7日	北ふれあいセンター	お正月遊び
20日	幸町図書館	絵本の読み聞かせ
2018年2月 12日	東河原公会堂	お別れ会
2018年3月 3日	国際交流センター	パーティー

主 催	トマト銀行、就実大学・就実短期大学		
タ イ ト ル	株式会社トマト銀行と就実大学・就実短期大学との連携協定		
実 施 者	株式会社トマト銀行取締役社長、就実大学・就実短期大学長		
日 付	平成29年7月5日	場 所	就実大学
対 象 者		参加人数	6名

概要（本文・写真・図等）

「就実大学・就実短期大学と株式会社トマト銀行との業務連携・協力に関する覚書」の調印式が平成29年7月5日（水）に本学図書館6階会議室において行われました。

同社は、中期経営計画「トマトみらい創生プラン」の重点目標に「地方創生・活性化への貢献」を掲げており、地域経済を活性化するという同じ目的をもっています。

一方本学は、平成27年4月に産学官地域連携センターを設立し、地域の自治体や団体・機関と連携して、地域社会の活性化や振興に積極的に取り組んでいます。

本覚書の締結により、岡山県等における中小企業・小規模事業者に対する支援を円滑に行うため相互に協力し、地方創生・地域活性化への貢献をより一層進めることが期待されます。

【連携協力の内容】

- (1) 地方創生に関する連携推進
- (2) 経営学（社会科学）系分野及び食品分野等における産学官連携の推進
- (3) ベンチャー企業（創業）の育成
- (4) 人材育成の推進
- (5) その他、お互いが協議決定した事項



主 催	特定非営利活動法人響き合いネットワーク 岡山SP研究会、 就実大学・就実短期大学		
タ イ ト ル	響き合いネットワーク 岡山S P研究会と就実大学・就実短期大学との 連携協定		
実 施 者	響き合いネットワーク 岡山S P研究会理事長、就実大学・就実短期大 学学長		
日 付	平成29年9月8日	場 所	就実大学
対 象 者		参加人数	13名

概要（本文・写真・図等）

特定非営利活動法人響き合いネットワーク 岡山S P研究会と就実大学・就実短期大学は、9月8日、学生、教職員、医療者及び地域住民のコミュニケーションに関わる教育・研究・健康増進事業に関する連携協定を締結しました。調印式は、井上俊之同法人理事長と、片岡洋行就実大学・就実短期大学学長により行われました。

この協定は、これまで培ってきた連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的な連携協力体制をとることにより、双方の発展に寄与するとともに、広く地域の医療・福祉や教育の発展、地域住民の健康の増進に貢献することを目的としています。

【連携協力の内容】

- (1) 就実大学・就実短期大学の学生へのコミュニケーション教育や乙の職員研修に関すること
- (2) 岡山S P研究会及び就実大学・就実短期大学が共同で主催する事業や展示会に関すること
- (3) 地域住民の健康増進及びコミュニケーション推進に関すること
- (4) 事業・教育研究成果等の広報に関すること
- (5) その他岡山S P研究会及び就実大学・就実短期大学が協議して必要と認める事項



主 催	岡山県立岡山東支援学校、就実大学・就実短期大学		
タ イ ト ル	岡山県立岡山東支援学校と就実大学・就実短期大学との連携協定		
実 施 者	岡山県立岡山東支援学校校長、就実大学・就実短期大学長		
日 付	平成30年3月22日	場 所	岡山東支援学校
対 象 者		参加人数	10名

概要（本文・写真・図等）

「就実大学・就実短期大学と岡山県立岡山東支援学校との連携協力に関する協定書」の調印式が平成30年3月22日（木）に岡山東支援学校で行われました。

これまでも岡山東支援学校とは地理的優位性を活かして、本学からヴァイオリン演奏による授業支援や運動会や文化祭への学生ボランティア派遣を行ってきたほか、岡山東支援学校には特別支援教育に係る教育実習生を受け入れていただくなど、協力関係を築いてきました。

こうした流れを受け、両校がその目指すところをお互いに共有し、連携を深めながら実現させることを期待しています。

【連携協力の内容】

- (1) 学生や生徒の実習やボランティア活動に関すること
- (2) 教育研究に関すること
- (3) 教員の派遣に関すること
- (4) 学校教育上の諸課題への対応に関すること
- (5) その他必要と認める事項



各種学外委員会の応嘱

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川 崎 剛 志
内 容	①日本山岳修験学会 理事 ②説話文学会 委員 ③神戸女子大学古典芸能研究センター 客員研究員				
期 間	①平成23年10月1日～（評議員）、平成25年10月1日～現在（理事） ②平成27年4月1日～現在 ③平成27年4月1日～現在				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	岡 本 悦 子
内 容	①岡山県女子体育連盟会長 ②岡山県現代舞踊連盟顧問 ③（公財）福武教育文化振興財団文化活動助成審査委員 ④中国電力会社岡山営業所アドバイザー ⑤子どもの社会参加を考える会in京山（通称チューリップの会）副会長				
期 間	①平成24年4月1日～平成30年3月現在 ②平成14年～理事、平成17年～副会長、平成21年～平成23年会長、平成24年～顧問～平成30年3月現在 ③平成28年2月～平成30年3月現在 ④平成22年4月1日～平成30年3月現在 ⑤平成20年～平成30年3月現在				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅 利 尚 民
内 容	①閑谷学校研究委員会編集委員 ②弘法寺脚供養総合調査委員会現地調査員				
期 間	①平成21年4月1日～現在 ②平成29年12月～現在				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	准教授	氏 名	中 塚 朋 子
内 容	①早島町公民館モデル検討懇談会委員				
期 間	①平成29年12月26日～平成31年3月31日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	門 原 眞 佐 子
内 容	①平成29年度岡山県・岡山市教員等育成協議会委員				
期 間	①平成29年6月30日～平成30年3月30日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博文
内 容	①兵庫教育大学岡山会 理事 ②岡山県小学校教育研究会岡山支会算数部会 顧問 ③東京書籍教育課題アドバイザー				
期 間	①平成25年4月1日～現在 ②平成28年4月1日～現在 ③平成29年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	村 田 恵 子
内 容	①社会福祉法人弘徳学園評議員 ②社会福祉法人閑谷福祉会評議員 ③社会福祉法人新天地育児院評議員 ④瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会 放課後児童部会副部長				
期 間	①平成29年4月1日～現在 ②平成29年4月1日～現在 ③平成29年4月1日～現在 ④平成28年4月1日～現在				

所 属	初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	高 木 亮
内 容	①岡山県小田郡矢掛町立矢掛中学校学校運営教委議会委員 ②岡山県小田郡矢掛町教育委員会学校評価専門員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日 ②平成29年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	堤 幸 一
内 容	①瀬戸内市教育委員会 点検・評価外部委員 ②岡山県薬剤師会 研究倫理委員会委員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日 ②平成29年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 み ち る
内 容	①岡山市学校問題解決サポート事業 専門相談員 ②岡山県教育委員会スクールカウンセラー配置事業 スーパーバイザー ③瀬戸内市子ども包括支援推進協議会委員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日 ②平成29年4月1日～平成30年3月31日 ③平成28年5月10日～現在				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
内 容	①倉敷市特別支援教育専門家チーム員 ②岡山県特別支援教育専門家チーム員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日 ②平成29年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡 綾 子
内 容	①倉敷市学習教室くらすぼアドバイザー				
期 間	①平成29年6月1日～平成30年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	森 村 和 浩
内 容	①「運動」を通じた鍛ほめプロジェクト推進委員（福岡県教育委員会） ②「運動」を通じた鍛ほめプロジェクトリサーチメンバー				
期 間	①平成29年度5月15日～現在 ②平成29年度5月15日～現在				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	井 芹 聖 文
内 容	①公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会指定大学院実地視察委員 ②京都文教大学心理臨床学会監査員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日 ②平成29年4月1日～現在				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
内 容	①岡山市教育委員会委員 ②岡山市男女共同参画推進センター（さんかく岡山）運営委員会委員 ③岡山市青少年問題委員会委員 ④岡山市社会福祉審議会委員 ⑤岡山市薬剤師会常任理事 ⑥岡山市薬剤師会オープンフォーラム委員会委員 ⑦日本細菌学会中国四国支部会評議員 ⑧日本薬学会薬学教育委員会委員 ⑨日本薬学会中国四国支部代議員 ⑩日本薬学会全国学生ワークショップ実行委員 ⑪日本薬学会若手薬学教員のためのアドバンスワークショップ実行委員 ⑫薬学教育協議会 微生物学教科担当教員会議世話人				
期 間	①平成22年10月8日～平成30年10月3日（2期目） ②平成22年4月1日～平成30年3月31日（4期目）				

<ul style="list-style-type: none"> ③平成26年 9 月 1 日～平成30年 8 月31日（2 期目） ④平成29年 4 月 1 日～平成31年 3 月31日 ⑤平成27年 4 月 1 日～現在 ⑥平成19年 4 月 1 日～現在 ⑦平成16年 4 月 1 日～現在 ⑧平成27年 4 月 1 日～平成30年 3 月31日 ⑨平成28年 4 月 1 日～現在 ⑩平成23年 4 月 1 日～現在 ⑪平成28年 4 月 1 日～現在 ⑫平成28年 4 月 1 日～現在
--

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	片 岡 洋 行
内 容					<ul style="list-style-type: none"> ①薬学教育協議会分析化学系教科検討委員会委員 ②Analytica Chimica Acta: Editorial Advisory Board member (Elsevier) ③Analytical Chemistry Letters: Editorial Board (Vinayak-Graphics) ④Journal of Environmental & Analytical Toxicology: Editorial Board Member (OMICS) ⑤日本分析化学会中国四国支部幹事 ⑥おかやまバイオアクティブ研究会幹事 ⑦Analytical Methods in Chemistry Editorial Board Member (Hindawi) ⑧Editorial Board Member of Chromatography (Japan) ⑨クロマトグラフィー科学会評議員 ⑩Permanent Contributing Editors in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier) ⑪日本薬学会中国四国支部代議員 ⑫薬学教育評価機構評価実施委員 ⑬Editorial Board Member of Journal of Translational Biomarkers & Diagnosis (SciDoc Publishers) ⑭Editorial Board Member of Journal of Bioanalytical Techniques (Sciforschen) ⑮日本私立短期大学協会中四国支部評議員 ⑯日本私立大学協会中四国支部評議員 ⑰国際化を進める岡山中央協議会理事 ⑱岡山県薬事審議会委員部会長 ⑲大学コンソーシアム岡山 第六期会長 ⑳岡山県私立短期大学協会副会長 ㉑日本私立短期大学協会理事・中四国支部監事 ㉒日本私立大学協会評議員 ㉓岡山EU協会理事 ㉔Editorial Board Member of Journal of Biochemistry and Analytical Studies (Sciforschen) ㉕第 2 回岡山マラソン実行委員会委員 ㉖第 4 回岡山芸術交流実行委員会委員 ㉗日ようびこども大学

期 間	間	①平成15年4月1日～現在 ②平成21年1月1日～現在 ③平成23年1月1日～現在 ④平成23年4月1日～現在 ⑤平成23年4月1日～現在 ⑥平成23年4月1日～現在 ⑦平成23年11月1日～現在 ⑧平成24年4月1日～現在 ⑨平成24年4月1日～現在 ⑩平成24年4月1日～現在 ⑪平成25年4月1日～現在 ⑫平成26年4月1日～現在 ⑬平成27年10月1日～現在 ⑭平成27年10月1日～現在 ⑮平成27年4月1日～現在 ⑯平成27年4月1日～現在 ⑰平成27年4月1日～現在 ⑱平成27年4月1日～平成31年3月31日 ⑲平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑳平成28年4月1日～現在 ㉑平成28年4月1日～現在 ㉒平成28年4月1日～現在 ㉓平成28年4月1日～現在 ㉔平成29年1月1日～現在 ㉕平成29年4月1日～平成30年3月31日 ㉖平成29年4月1日～平成30年3月31日 ㉗平成29年6月4日
--------	---	---

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	西 村 多美子
内 容	容	①日本薬理学会 学術評議員 ②レギュラトリーサイエンス学会 社員（評議員） ③私立薬科大学協会学生部長会委員 ④薬学教育評価機構評価実施員			
期 間	間	①1987年より現在 ②2011年7月より2017年7月 ③2017年4月より現在 ④2015年より現在			

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
内 容	①岡山県環境放射線等測定技術委員会委員 ②(社)日本アイソトープ協会本部企画委員 ③主体的学び研究所 客員フェロー ④Pasteur Society Japan (日本パスツール協会) プレスリリース日本語版作成委員 ⑤日本軟骨代謝学会評議員 ⑥日本生化学会評議員 ⑦硬組織再生生物学会理事 ⑧日本食品衛生学会理事 (中国四国ブロック担当) ⑨おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員 ⑩Editorial Board of Pathology and Laboratory Medicine ⑪ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進国際会議開催委員長 ⑫第114回日本食品衛生学会学術大会実行委員				
期 間	①平成22年4月1日～ ②平成26年4月1日～ ③平成27年4月1日～ ④平成15年4月1日～ ⑤平成11年3月1日～ ⑥平成17年10月1日～ ⑦平成16年10月1日～ ⑧平成25年3月1日～ ⑨平成25年10月11日～ ⑩平成28年11月1日～ ⑪平成29年10月1日～ ⑫平成29年11月1日～				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	洲 崎 悦 子
内 容	①津山洋学資料館 協議会委員				
期 間	①平成22年4月1日～平成30年3月31日 (予定任期)				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡 辺 雅 彦
内 容	①日本気象予報士会岡山支部長 ②日本環境変異原学会評議員 ③日本環境変異原学会編集委員				
期 間	①平成19年3月31日～現在 ②平成28年1月1日～現在 ③平成28年1月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
内 容	①薬学共用試験センター CBT実施委員				
期 間	①平成29年4月1日～平成30年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	工 藤 季 之
内 容	①公益社団法人日本技術士会生物工学部会中国地区幹事 ②公益社団法人日本技術士会中国本部修習技術者支援委員会委員 ③公益社団法人日本技術士会中国本部企画総務委員会Skype会議普及小委員会委員 ④公益社団法人日本技術士会中国本部環境部会副部長 ⑤公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部幹事 ⑥公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部修習技術者支援委員会委員長 ⑦岡山実験動物研究会理事				
期 間	①平成19年4月1日～平成31年6月30日 ②平成21年1月1日～平成31年6月30日 ③平成23年6月23日～平成31年6月30日 ④平成23年6月23日～平成31年6月30日 ⑤平成25年7月13日～平成31年6月30日 ⑥平成25年7月20日～平成31年6月30日 ⑦平成27年4月1日～平成31年3月31日				

所 属	経営学部	職 位	教 授	氏 名	杉 山 慎 策
内 容	①岡山市経済政策審議会等委員 ②岡山市基本政策審議会委員 ③岡山県立城東高校スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 ④つやま産業支援センター運営協議会会長 ⑤津山市観光戦略アクションプラン策定委員会委員 ⑥公益財団法人中島記念財団 ⑦津山市歴史文化基本構想等審議会委員 ⑧岡山県中小企業振興審議会委員 ⑨中国ニュービジネス大賞表彰制度にかかる審査会委員 ⑩ビジネスプランコンテストおかやま2017審査委員				
期 間	①平成28年11月15日～平成30年11月14日 ②平成28年11月15日～平成30年11月14日 ③平成28年4月1日～平成30年3月31日 ④平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑤平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑥平成28年4月1日～平成30年3月31日 ⑦平成29年11月20日～平成31年3月31日				

	⑧平成30年1月12日～平成31年3月31日 ⑨平成30年2月1日～平成30年4月30日 ⑩平成29年7月1日～平成30年3月31日
--	--

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野 本 明 成
内 容	①岡山市公の施設の指定管理候補者選定委員会委員 ②笠岡市施策評価委員会委員 ③笠岡市総合計画審議会委員				
期 間	①平成29年6月17日～平成31年6月16日 ②平成29年8月1日～平成29年9月30日 ③平成28年9月26日～平成29年11月30日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大 崎 泰 正
内 容	①特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド監事 ②岡山市中区区づくり推進事業審査会副委員長 ③山田方谷研究会理事（任意団体）				
期 間					

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加 賀 美 太 記
内 容	①くらしと協同の研究所 研究委員・『くらしと協同』編集委員 ②くらしと協同の研究所 理事・運営委員・企画委員				
期 間	①平成26年6月1日～現在 ②平成29年6月1日～現在				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
内 容	①岡山県生涯学習審議会 審議委員 ②瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員 ③日本保育学会第70回大会実行委員 ④日本保育学会第70回大会 ポスター発表「保育専門職の養成など」座長				
期 間	①平成27年8月1日～平成29年7月31日 ②平成26年7月2日～現在 ③平成29年3月11日～平成29年5月21日 ④平成29年5月20日				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
内 容	①岡山県新進美術家育成「I氏賞」推薦委員 ②広島県立美術館評価委員会 委員				
期 間					

所 属	生活実践科学	職 位	教 授	氏 名	畦 五 月
内 容	①全国健康保険協会岡山支部 健康づくり事業協議会委員 ②岡山県国民保護協議会委員				
期 間	①平成29年4月1日から平成31年3月31日 ②平成29年5月12日から平成31年5月11日				

講師の派遣

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	准教授	氏 名	浅 利 尚 民
実 施 日	①平成29年5月7日 ②平成29年5月20日 ③平成29年5月27日 ④平成29年7月1日 ⑤平成29年9月10日 ⑥平成29年11月5日				
事業主催者(依頼元)	①山陽新聞カルチャープラザ ②岡山県立博物館・林原美術館 ③岡山県立博物館・林原美術館 ④岡山県立博物館・林原美術館 ⑤姫路文学館 ⑥鳥取県立博物館				
内 容(タイトル)	①特別講座「岡山藩主池田家の日本刀・大包平の謎に迫る」 ②岡山県立博物館企画展「江戸時代の岡山の学び—教育の源流—」・林原美術館企画展「備前岡山藩の学び 藩主の教養・藩学校・閑谷学校」連携展示解説 ③同上 ④同上 ⑤平成29年度姫路文学館友の会研修講座(第3回)「池田家が守り伝えてきたもの—天樹院(千姫)と池田光政・綱政を中心に—」 ⑥鳥取入府400年 池田光政展「岡山の歴史研究者による‘でーれー’ギャラリートーク」				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	教 授	氏 名	小 山 敬 一
実 施 日	①平成29年11月18日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県高等学校教育研究会英語部会(中国地区高等学校スピーチコンテスト実行委員会)				
内 容(タイトル)	①高校生英語スピーチコンテスト審査員				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	教 授	氏 名	小 山 敬 一
実 施 日	①平成29年12月20日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県立岡山城東高等学校				
内 容(タイトル)	①中等教育学校における英語授業改善				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	准教授	氏 名	武 部 好 子
実 施 日	①平成29年9月1日・2日・3日 ②平成29年9月2日				
事業主催者(依頼元)	①シアターX (カイ) (東京 両国) ②シアターX (カイ) (東京 両国)				
内 容(タイトル)	①2017年日本・アイルランド外交関係樹立/60周年シアターX創立25周年記念年 シアターX+演劇集団マウス・オン・ファイア (アイルランド) 共同企画制作『ゴドーを待ちながら』 ベケット自身の演出ノートによる公演 アイルランド大使館とのオープニングレセプション、上演前の劇団からのプレトーク及び終演後の観客とのアフターミーティングにおける通訳 ②アート・カンファレンス (議論・討論会)「今日わ!S. ベケットさん」				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	曾 根 正 人
実 施 日	①平成19年11月24日				
事業主催者(依頼元)	①龍谷大学 龍谷史学会				
内 容(タイトル)	①平安初期仏教界と五台山				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	吉 本 勇
実 施 日	①平成29年12月8日				
事業主催者(依頼元)	①ライフパーク倉敷 (倉敷市民学習センター)				
内 容(タイトル)	①ジーンズを活用した観光客誘致—倉敷市児島地区を例に—				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	門 原 眞 佐 子
実 施 日	①平成29年5月19日 ②平成29年6月23日 ③平成29年8月7日 ④平成29年10月6日 ⑤平成29年10月20日 ⑥平成29年12月8日 ⑦平成30年1月25日				
事業主催者(依頼元)	①総社市教育委員会こども夢づくり課 ②総社市教育委員会こども夢づくり課 ③高梁市教育研修所生徒指導部会研修会 ④総社市教育委員会こども夢づくり課				

	⑤総社市教育委員会こども夢づくり課 ⑥新見市立井倉小学校PTA研修会 ⑦久米郡久米南町立弓削小学校PTA研修会
内 容(タイトル)	①総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ②総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ③発達障害をもつ子どもたちとの接し方・スキルアップ法 ～「つなげる」の視点に立って～ ④総社市立秦幼稚園・神在幼稚園合同研修会 指導助言 ⑤幼稚園と小学校をつなぐもの ～総社市の取組を通して～ ⑥親子の絆 一人一人を大切にしたい関わりを目指して ～伝えること・伝わること～ ⑦子どもとのよりよいコミュニケーションを目指して

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	吉 田 満 穂
実 施 日	①平成30年1月19日				
事業主催者(依頼元)	①総社市教育委員会				
内 容(タイトル)	①総社市就学前教育研修会「キーワードから考えるこれからの保育」				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博 文
実 施 日	①平成29年5月18日 ②平成29年5月25日 ③平成29年6月2日 ④平成29年6月9日 ⑤平成29年6月16日 ⑥平成29年6月22日 ⑦平成29年6月30日 ⑧平成29年7月6日 ⑨平成29年8月1日 ⑩平成29年8月4日 ⑪平成29年8月17日 ⑫平成29年8月22日 ⑬平成29年8月24日 ⑭平成28年8月25日 ⑮平成29年8月28日 ⑯平成29年8月29日 ⑰平成29年9月13日 ⑱平成29年9月14日 ⑲平成29年9月29日 ⑳平成29年10月6日 ㉑平成29年10月13日				

	<p>②平成29年10月17日 ③平成29年10月20日 ④平成29年11月10日 ⑤平成29年11月24日 ⑥平成29年12月 1 日 ⑦平成29年12月 8 日 ⑧平成29年12月22日 ⑨平成30年 1 月26日 ⑩平成30年 2 月16日</p>
事業主催者(依頼元)	<p>①倉敷市教育委員会、倉敷市立赤崎小学校 ②勝央町教育委員会、勝央町立勝間田小学校 ③赤磐市立山陽北小学校 ④真庭市立木山小学校 ⑤勝央町教育委員会 ⑥三重県松阪市立阿坂小学校 ⑦三重県桑名市立長島北部小学校 ⑧浅口市立金光竹小学校 ⑨倉敷市教育委員会、倉敷市立赤崎小学校 ⑩津山市学校教育研究センター、津山市立東小学校 ⑪勝央町教育委員会 ⑫三重県桑名市教育委員会、三重県桑名市教育研究所 ⑬真庭市立木山小学校 ⑭笠岡市教育委員会、笠岡市教育研修所小学校算数研修部会 ⑮倉敷市教育委員会、倉敷市立赤崎小学校 ⑯赤磐市教育委員会、赤磐市立桜が丘中学校ブロック保幼小中合同研修会 ⑰三重県桑名市立長島北部小学校 ⑱三重県桑名市立長島北部小学校 ⑲倉敷市教育委員会、倉敷市立赤崎小学校 ⑳倉敷市教育委員会、倉敷市立赤崎小学校 ㉑赤磐市立山陽北小学校 ㉒津山市立東小学校 ㉓三重県松阪市立阿坂小学校 ㉔勝央町教育委員会、勝央町立勝央北小学校 ㉕三重県桑名市教育委員会、三重県桑名市立長島北部小学校 ㉖真庭市教育委員会、真庭市立落合中学校区授業研究会、真庭市立木山小学校 ㉗浅口市立金光竹小学校 ㉘三重県桑名市正和中学校区合同研修会、三重県桑名市立七和小学校 ㉙島根県江津市立川波小学校 ㉚赤磐市立山陽小学校</p>
内 容(タイトル)	<p>①講義「新学習指導要領が求めるこれからの算数授業」 ②研究授業の指導助言・講義「新しい算数の授業づくり」 ③研究授業の指導助言 ④研究授業の指導助言 ⑤講義「算数科におけるめあての設定と実際」 ⑥講義「新学習指導要領が目指す算数の授業とは」</p>

	<p>⑦研究授業の指導助言 ⑧研究授業の指導助言 ⑨学習指導案検討会の指導助言 ⑩講演「主体的・協働的で深い学びにつながる算数の授業づくり」 ⑪講義「新学習指導要領に求められる授業とは」 ⑫講演「統合的・発展的に考える力を育成する算数の授業づくり」 ⑬学習指導案検討会の指導助言 ⑭講演「数学的に考える資質・能力を伸ばす算数の授業づくり」 ⑮学習指導案検討会の指導助言 ⑯講演「新学習指導要領が目指す授業と保幼小中連携」 ⑰研究授業の指導助言 ⑱研究授業の指導助言 ⑲研究授業の指導助言 ⑳研究授業の指導助言 ㉑研究授業の指導助言 ㉒研究授業の指導助言 ㉓研究授業の指導助言 ㉔研究授業の指導助言 ㉕講演「一人一人の学ぶ楽しさ・学ぶ意欲を育む授業づくり」 ㉖研究授業の指導助言・講演「新学習指導要領が目指すこれからの算数授業」 ㉗研究授業の指導助言 ㉘講演「学ぶ楽しさを味わう『魅力ある算数の授業づくり』」 ㉙研究授業の指導助言・講義「算数科における授業づくりの基礎・基本」 ㉚研究授業の指導助言・講義「新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり」</p>
--	--

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	森 宏 樹
実 施 日	①平成29年10月25日 ②平成29年12月 5 日 ③平成29年12月12日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県立鴨方高等学校 ②浅口市立金光中学校 ③高梁市立有漢西小学校				
内 容(タイトル)	①、②、③薬物乱用防止教室				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石 原 みちる
実 施 日	①平成29年 5 月21日 ②平成29年 6 月20日 ③平成29年 8 月28日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県臨床心理士会 ②岡山県教育委員会 ③岡山市教育研究研修センター				
内 容(タイトル)	①新入会員オリエンテーション「臨床心理士と倫理」 ②平成29年度第2回SC配置事業連絡協議会 「学校とスクールカウンセラーの協働を目指してー『コンサルテーション』利用のススメー」 ③岡山市教育研究研修センター：不登校児童生徒への支援に関する研修講座 「不登校の子ども達への理解と支援」				

所 属	教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	岡 田 信 吾
実 施 日	①平成29年 4 月28日 ②平成29年 7 月28日 ③平成29年 8 月21日 ④平成29年 9 月13日 ⑤平成29年 9 月19日 ⑥平成29年 9 月25日 ⑦平成29年12月18日 ⑧平成30年 1 月15日 ⑨平成30年 1 月29日				
事業主催者(依頼元)	①倉敷市教育委員会 ②倉敷市教育委員会 ③岡山市中区 校長・教頭会 ④岡山県立鴨方高等学校 ⑤岡山県立早島支援学校 ⑥吉備中央町立津賀幼稚園 ⑦岡山県立早島支援学校 ⑧岡山県立鴨方高等学校 ⑨吉備中央町立津賀幼稚園				
内 容(タイトル)	①特別支援教育コーディネーター研修 第1回 ②特別支援教育コーディネーター研修 第3回 ③通常学級における特別支援教育の在り方 ④教育相談 ⑤教職員研修講師 ⑥教職員研修講師 ⑦教職員研修講師 ⑧高等学校における特別支援教育 ⑨教職員研修講師				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	鈴 木 薫
実 施 日	①平成29年10月 8 日 ②平成29年12月14日 ③平成30年 3 月 4 日				
事業主催者(依頼元)	①金沢大学 ②岡山県教育総合センター ③四国大学				
内 容(タイトル)	①日本養護教諭教育学会第25回学術集会座長 ②経験10年養護教諭対象研修講座講師 研修生発表の指導助言 講演「養護教諭として、どう自分を育て続けるか」 ③日本健康相談活動学会第14回学術集会座長				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡 綾 子
実 施 日	①平成29年 7 月24日 ②平成30年 2 月 5 日				
事業主催者(依頼元)	①四条畷市立忍ガ丘小学校 ②金光学園高等学校				
内 容(タイトル)	①気になる子どもと保護者の支援 ②高校 1 年生探究クラス対象教育ゼミ 中間発表会 助言者				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岩 佐 和 典
実 施 日	①平成29年 6 月12日 ②平成30年 3 月 4 日				
事業主催者(依頼元)	①倉敷スイートホテル ②川崎医科大学附属病院 麻酔・集中治療科				
内 容(タイトル)	①慢性痛の認知行動療法 ②がんばらない痛みの和らげ方				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	津 島 靖 子
実 施 日	①平成29年 8 月29日				
事業主催者(依頼元)	①福山聴覚障害教育研究協議会				
内 容(タイトル)	①「言語発達のみちすじー聞く・話す・読むー」				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	山 田 美 穂
実 施 日	①平成29年5月29日～平成30年3月19日（計20回）				
事業主催者(依頼元)	①岡山リビング事業社				
内 容(タイトル)	①古典フラ入門				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	森 村 和 浩
実 施 日	①平成29年8月9日 ②平成29年8月24日 ③平成29年11月16日 ④平成29年12月14日				
事業主催者(依頼元)	①福岡県教育委員会（福岡県体育研究所） ②福岡県教育委員会（福岡県体育研究所） ③おかやまCOC+推進協議会（県大、総社市） ④福岡県教育委員会（福岡県体育研究所）				
内 容(タイトル)	①『運動』を通した鍛ほめプロジェクト」訪問指導：津福小学校（福岡県） ②『運動』を通した鍛ほめプロジェクト」訪問指導：苅田小学校（福岡県） ③県大メディカルフィットネス講座：メタボ改善のためのスロージョギングR指導 ④『運動』を通した鍛ほめプロジェクト」訪問指導：苅田小学校（福岡県）				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	助 教	氏 名	堀 田 裕 司
実 施 日	①平成29年10月10日				
事業主催者(依頼元)	①日本生産性本部（健康いきいき職場づくりフォーラム秋季定例セミナー）				
内 容(タイトル)	①情けは人のためならず～利他的行動でポジティブ感情をアップする～				

所 属	薬学部	職 位	教 授	氏 名	塩 田 澄 子
実 施 日	①平成29年3月12日 ②平成29年8月4日～8月7日 ③平成29年8月23日 ④平成29年9月16日～9月18日 ⑤平成29年9月30日 ⑥平成29年10月19日 ⑦平成29年10月23日 ⑧平成29年11月24日 ⑨平成30年2月15日				

事業主催者(依頼元)	<ul style="list-style-type: none"> ①富永調剤薬局 ②日本薬学会 ③岡山市男女共同社会推進センター（さんかく岡山） ④薬学教育協議会 ⑤就実大学 ⑥就実学園こども園 ⑦岡山県立一宮高等学校 ⑧社会福祉法人幸輝園乙多見事業所（岡山県社会保険協会） ⑨岡山市教育研究研修センター
内 容(タイトル)	<ul style="list-style-type: none"> ①第332回サンデーセミナー「薬剤耐性菌の現状と臨床分離されたMRSAから見えること」 ②「第3回若手薬学教員のためのアドバンスワークショップ」 ③コドモさんかくゼミFOR GIRLS「ヨーグルトの中の乳酸菌を育ててみよう！調べてみよう！」 ④認定実務実習指導薬剤師養成「第49回 薬剤師のためのワークショップ 中国・四国 in 岡山」 ⑤就実公開講座 「健やかに過ごすための感染対策」 ⑥平成29年度子育て講座「小児領域で注意が必要な感染症～子どもを守ろう！」 ⑦出前授業「身近な感染症の話～正しく知って、正しく防ごう～」 ⑧勤労者の健康と福祉向上事業「高齢者介護施設の感染症～注意すべきポイント～」 ⑨講演「岡山市の先生への期待」

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	西 村 多美子
実 施 日	①平成29年8月26日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市男女共同参画推進センター				
内 容(タイトル)	①平成29年度2017 コドモさんかくゼミ FOR GIRLS [理系っていいかも！未来のリケジョ応援プロジェクト] 女の子のためのもっともっと理科がすきになる実験教室 くすりの不思議				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中 西 徹
実 施 日	<ul style="list-style-type: none"> ①平成29年8月21日、9月19日 ②平成29年8月27日 ③平成29年8月3日 ④平成29年9月10日、11月19日 				
事業主催者(依頼元)	<ul style="list-style-type: none"> ①清心中学校・女子高校 ②エスマイル ③桃谷順天館 ④NPOヘルスサイエンス地域国際センター 				

内 容(タイトル)	①科学教育（講義&実験）、iPS細胞観察会講師 ②健康フェア講演会（再生医療）講師 ③iPS細胞観察会講師 ④健康づくり講演会（リウマチ、再生医療）講師
-----------	---

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平 岡 修
実 施 日	①平成29年7月11日 ②平成29年7月18日 ③平成29年10月11日 ④平成29年11月7～9日 ⑤平成29年12月2日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市立石井中学校 ②岡山県立岡山東商業高校 ③備前市立備前片上高校 ④岡山市立石井中学校 ⑤岡山市立福田小学校、福田公民館				
内 容(タイトル)	①薬物乱用防止教室 講師 ②薬物乱用防止教室 講師 ③薬物乱用防止教室 講師 ④職場体験受け入れ ⑤「チャレンジワーク！お仕事体験教室」「薬剤師さんになろう！」 講師				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	加賀美 太 記
実 施 日	①平成29年6月24日 ②平成29年11月13日				
事業主催者(依頼元)	①くらしと協同の研究所 第25回総会記念シンポジウム ②地域と協同の研究センター『共同の未来塾』第9回				
内 容(タイトル)	①シンポジウムコメンテータ ②非営利組織のマーケティング				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	三 浦 紗綾子
実 施 日	①平成30年2月18日				
事業主催者(依頼元)	①日本整形靴技術協会（IVO JAPAN）				
内 容(タイトル)	①ドイツ健康靴を売る—先人たちの挑戦—				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	澤 津 まり子
実 施 日	①平成29年10月26日				
事業主催者(依頼元)	①岡山県私立保育園連盟				
内 容(タイトル)	①2017幼児保育ゼミ「保育の基本にたちかえって」				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹 倉 千佳弘
実 施 日	①平成29年 9 月 2 日 ②平成29年10月13日 ③平成30年 1 月27日 ④平成30年 2 月12日				
事業主催者(依頼元)	①潜在保育士復職支援プロジェクト ②連合岡山 ③東備学ぶ会 ④(社)子ども情報研究センター子育て連携部会				
内 容(タイトル)	①保育者論 ②就職差別の根絶に向けて ③「子どもの貧困」を問い直すーいま、私たちにできることは何かー ④児童期に性的虐待を受けた女性サバイバーの語りに見る自己回復力、虐待ゼロのまちの地域養護活動ー施設で暮らす子どもの「子育ての社会化」と旧沢内村				

所 属	幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	柴 川 敏 之
実 施 日	①平成29年 8 月 4 日 (金) ②平成29年10月10日 (日) ③平成29年11月12日 (日) ④平成29年12月17日 (日)				
事業主催者(依頼元)	①ライフパーク倉敷 市民学習センター ②松本市美術館 ③松本市美術館 ④神戸の文化発信実行委員会 (BBプラザ美術館)				
内 容(タイトル)	①ワークショップ「未来と過去へタイムスリップ☆2000年後の化石をつくろう!」の講師 ②ワークショップ「高校生講座 2000年後の松本を発掘しよう!」の講師 ③ワークショップ「あそ美じゅっ 2000年後の絵手紙をつくろう!」の講師 ④ワークショップ「アート入門: ようこそ! 2000年後の世界へ」の講師				

所 属	幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	荊 木 まき子
実 施 日	①平成29年2月23日 ②平成29年7月24日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市立福浜中学校 ②神戸市立高津橋小学校				
内 容(タイトル)	①第8回授業力向上職員研修 ②模擬ケース会議研修				

所 属	幼児教育学科	職 位	講 師	氏 名	伊 藤 優
実 施 日	①平成29年12月2日				
事業主催者(依頼元)	①第58回中・四国保育学生研究大会運営事務局(四国学院大学)				
内 容(タイトル)	①「乳幼児の食事」講評者				

所 属	生活実践科学	職 位	教 授	氏 名	畦 五 月
実 施 日	①平成29年8月7日 ②平成30年2月10日				
事業主催者(依頼元)	①吉備創生カレッジ ②笠岡市中央公民館				
内 容(タイトル)	①中国地方におけるサメの食習慣はどのようにして形成されたか？ ②オーダーメイド栄養学(薬膳)のすすめ				

所 属	生活実践科学	職 位	准教授	氏 名	原 田 龍 宜
実 施 日	①平成29年8月21日 ②平成29年9月4日				
事業主催者(依頼元)	①吉備創生カレッジ ②吉備創生カレッジ				
内 容(タイトル)	①サッカーボールの黒い所の数は？ ②黄金比って美しいの？				

所 属	生活実践科学	職 位	講 師	氏 名	小 田 奈 緒 美
実 施 日	①平成29年2月17日 ②平成29年5月18日 ③平成29年8月23日～平成29年8月24日				
事業主催者(依頼元)	①岡山市市民生活局生活安全課消費生活センター ②岡山市市民協働局ESD推進課				

	③岡山市市民協働局ESD推進課
内 容(タイトル)	①社会を変える節約お買い物術-賢い消費者になるために- ②第2回ESDカフェ 消費者市民社会ってどんな社会？ ～『円投票』で持続可能な社会を作ろう～ ③いきものフェスタ

『地域と歩んだ就実の軌跡－地域貢献報告書』

第 10 号

2018年 7 月30日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原一丁目 6 番 1 号
Tel (086)271-8111(代)

発行責任者 地域貢献委員長 柴田隆司

印 刷 株式会社三門印刷所